

# 岩倉市公共施設白書

平成 27 年 12 月

岩 倉 市



# はじめに

---

本市では、人口が大きく増加した昭和 40 年代から 50 年代にかけて学校施設や保育園など、多くの公共施設が整備されてきました。これらの施設は、建設されてから 40 年ほどが経ち、大規模な修繕や建て替えなどの老朽化対策が必要となる時期を迎えております。今後、この老朽化対策にかかる費用が増加し、大きな財政負担となることを見込まれます。また、少子高齢化による人口構造や社会的ニーズの変化など、建設当時からの社会情勢の変化への対応も課題となっています。

こうした公共施設の現状を踏まえ、適正な施設配置、さらには施設の長寿命化を含めた将来を見据えた公共施設のあり方を検討する必要があります。また、将来の公共施設のあり方を検討する上では、市民の皆様と行政が公共施設に関する情報や問題意識を共有し、幅広く論議を進めていくことが大切です。

そこで、本市が所有している公共施設の設置目的や施設の利用状況、コスト、老朽度などの公共施設に関する現状、将来の大規模な修繕や建て替えにかかる費用などをわかりやすく「見える化」し、今後の公共施設のあり方を検討する基礎資料として「岩倉市公共施設白書」を作成しました。

# 目 次

## 第1章 岩倉市の概要

### 第1節 立地条件・交通条件

- (1) 立地条件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 交通条件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### 第2節 岩倉市の人口の推移・将来予測

- (1) 人口の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 人口の将来予測・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

### 第3節 岩倉市の財政状況

- (1) 歳入の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 市税の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (3) 歳出の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (4) 義務的経費の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (5) 投資的経費の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (6) 基金の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (7) 市債の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (8) 職員数の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

## 第2章 岩倉市の公共施設

### 第1節 公共施設の概要

- (1) 公共施設の保有状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (2) 人口と公共施設面積の比較・・・・・・・・・・ 13
- (3) 公共施設の耐震性能の状況・・・・・・・・・・ 14

### 第2節 将来のライフサイクルコストの試算・・・・・・・・ 15

### 第3節 公共施設を取り巻く課題・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

## 第3章 施設分類ごとに見た現状と課題

### 第1節 資料の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

### 第2節 施設分類ごとの現状

- (1) 集会施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

(2)	文化施設	26
(3)	図書館	28
(4)	その他社会教育系施設	30
(5)	スポーツ施設	32
(6)	学校	35
(7)	保育園	39
(8)	地域交流センター	43
(9)	児童館	46
(10)	子ども発達支援施設	50
(11)	高齢福祉施設	52
(12)	保健施設	54
(13)	診療所	56
(14)	公営住宅	58
(15)	庁舎等	60
(16)	消防施設	62
(17)	その他行政系施設	65
(18)	上水道施設	67
(19)	公園・広場等	69
(20)	その他の施設	71

### 第3節 施設分類ごとの課題 73

## 第4章 地域別に見た現状と課題

### 第1節 地域別の人口の推移・将来予測

(1)	人口の推移	74
(2)	人口の将来予測	77

### 第2節 地域ごとの施設の現状

(1)	北部地域の人口構成と公共施設保有量	79
(2)	中部地域の人口構成と公共施設保有量	80
(3)	南部地域の人口構成と公共施設保有量	81

### 第3節 地域ごとの課題 82

# 第1章 岩倉市の概要

## 第1節 立地条件・交通条件

### (1) 立地条件

岩倉市は愛知県の北西部、濃尾平野のほぼ中央に位置し、市の北部において江南市、西は一宮市、東は小牧市、南は北名古屋市にそれぞれ接しています。名古屋市の北西10km圏にあり、名古屋市へ電車で15～20分と交通利便性に優れており、大都市近郊の住宅都市として発展してきました。

市域は東西3.9km、南北4.9km、面積10.47km<sup>2</sup>となっています。

また、本市は濃尾平野のほぼ中央部に位置していることから地形は平坦であり、標高は北端の井上町で最高の12.5m、南部の北島町、野寄町、川井町一帯で最低の7.5mとなっています。市のほぼ中央を南北に五条川が、小牧市との境を矢戸川が流れています。

### (2) 交通条件

本市の道路網は、国道155号線及び県道として春日井一宮線、名古屋江南線、浅野羽根岩倉線、小牧岩倉一宮線、小口岩倉線、岩倉停車場線、岩倉西停車場線、石仏停車場線、その他市道から構成されています。

市域北部では、名神高速道路が横断しており、市内にインターチェンジはありませんが、最寄りのインターチェンジとして一宮インターチェンジ及び小牧インターチェンジがあります。また、名古屋高速一宮線や小牧線の出入口からも至近な場所にあります。都市計画道路は14路線が指定されており、改良率は79.7%となっています。

24時間交通量は、(都)名古屋江南線が最も多く、次いで国道155号、岩倉停車場線などが多くなっています。(※名神高速道路は除く)。

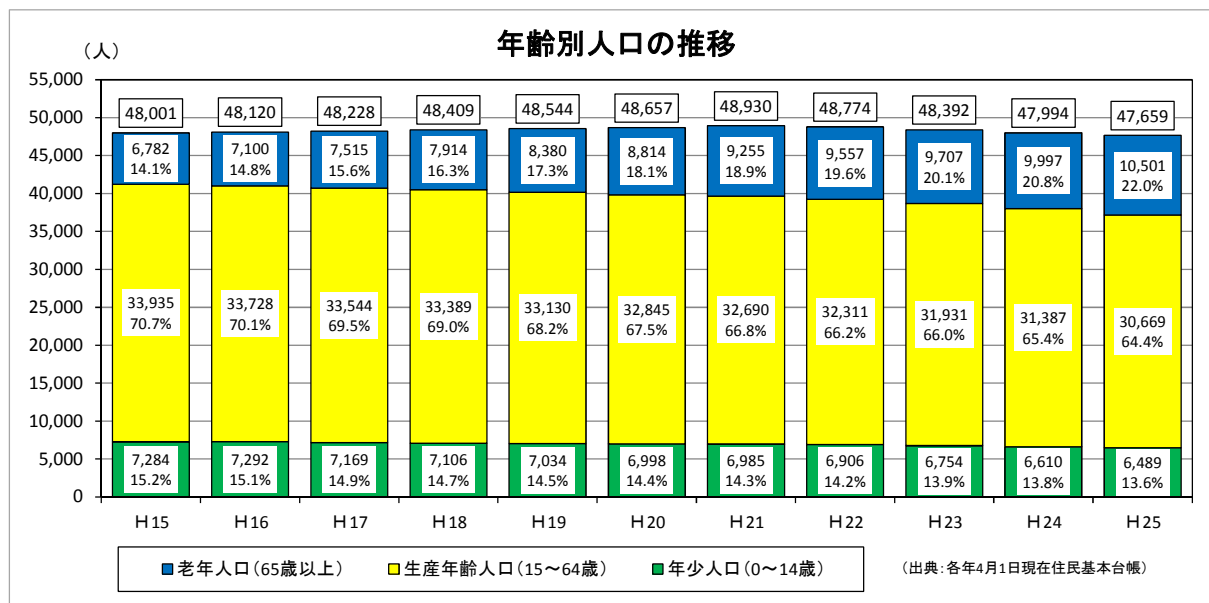
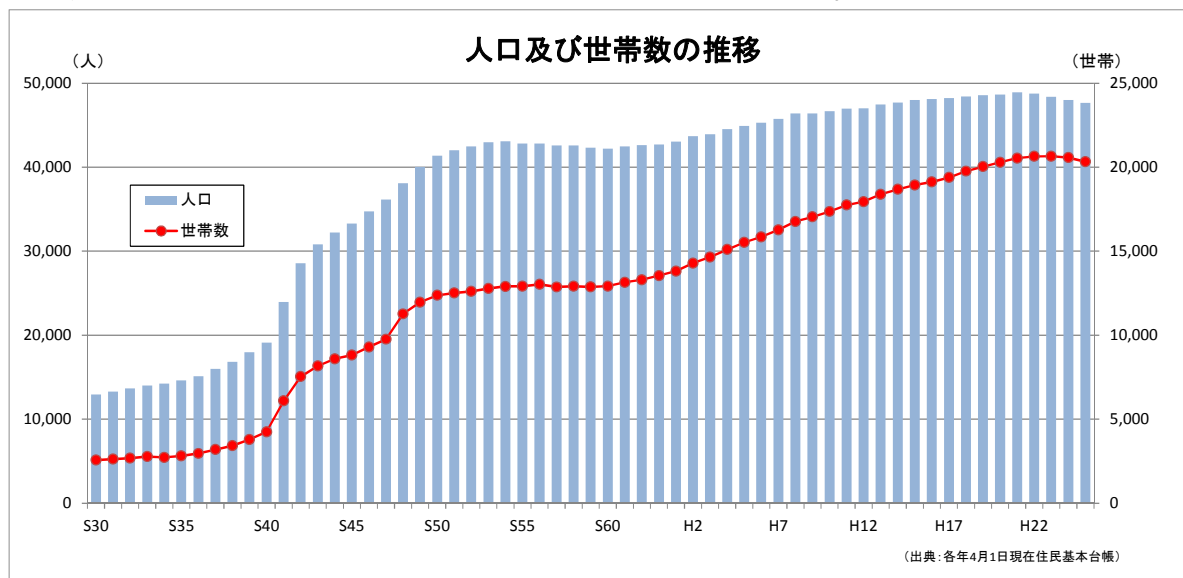
公共交通機関では、市の中央を南北に名鉄犬山線が走っており、市内には石仏駅、岩倉駅、大山寺駅の3つの駅が設けられています。この中でも岩倉駅はバス路線により他の市町と結ぶ拠点となっていることから、県下でも年間乗降人数の特に多い駅となっています。

## 第2節 岩倉市の人口の推移・将来予測

### (1) 人口の推移

岩倉市の人口は、岩倉団地の建設及び駅西土地区画整理事業が行われた昭和40年から昭和50年ごろにかけて大きく増加し、それ以降ほぼ横ばいで推移してきました。その後、平成21年度の48,935人をピークに緩やかな減少傾向となっています。世帯数も昭和40年ごろから増加してきましたが、平成23年度の20,649戸をピークに減少しています。

また、年齢区分別に人口の推移を見ていくと、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は平成15年度から平成25年度にかけてともに10%ほど減少しています。一方、老年人口（65歳以上）については55%ほどの増加となり、少子高齢化が進んでいることがわかります。1世帯当たりの平均人数も、昭和40年4.5人/世帯から、平成15年度は2.5人/世帯、平成25年は2.3人/世帯と約半数に減少しています。

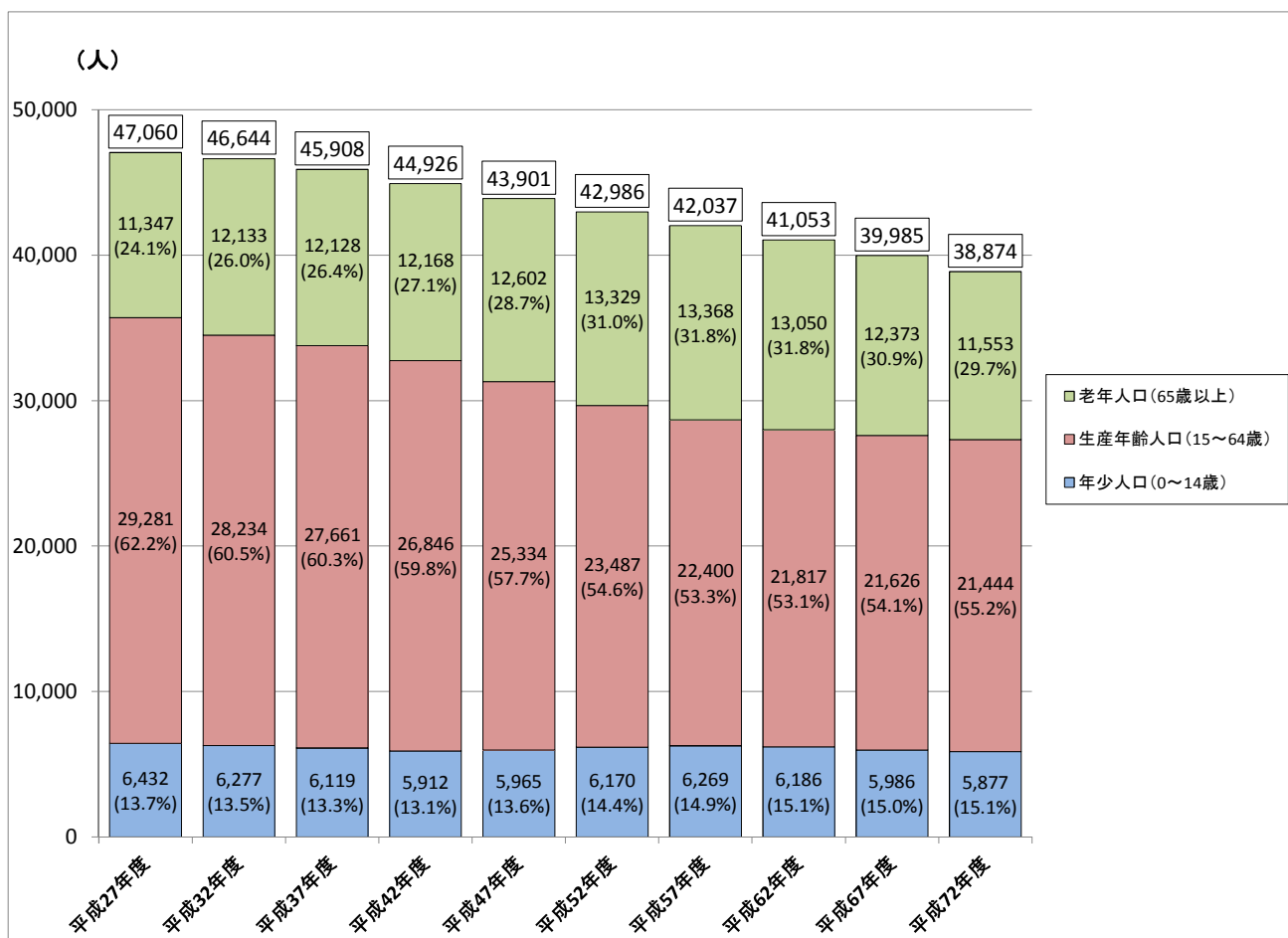


## (2) 人口の将来予測

直近5年の人口の変化から、今後の本市の人口を推計しました。その結果、本市の人口については減少することが予想され、平成27年度から平成47年度にかけての20年間で6.7%減少すると予想されます。

年齢別の人口の割合の推移を見ると、年少人口(0～14歳)は13.7%から13.6%でほぼ横ばい、生産年齢人口(15～64歳)は62.2%から57.7%へ減少しています。しかし老年人口(65歳以上)は24.1%から28.7%へと増加し、高齢化が進行することが予想されます。

全体の人口の減少、人口構成の変化に合わせた適切な行政サービスを提供することが求められているといえます。

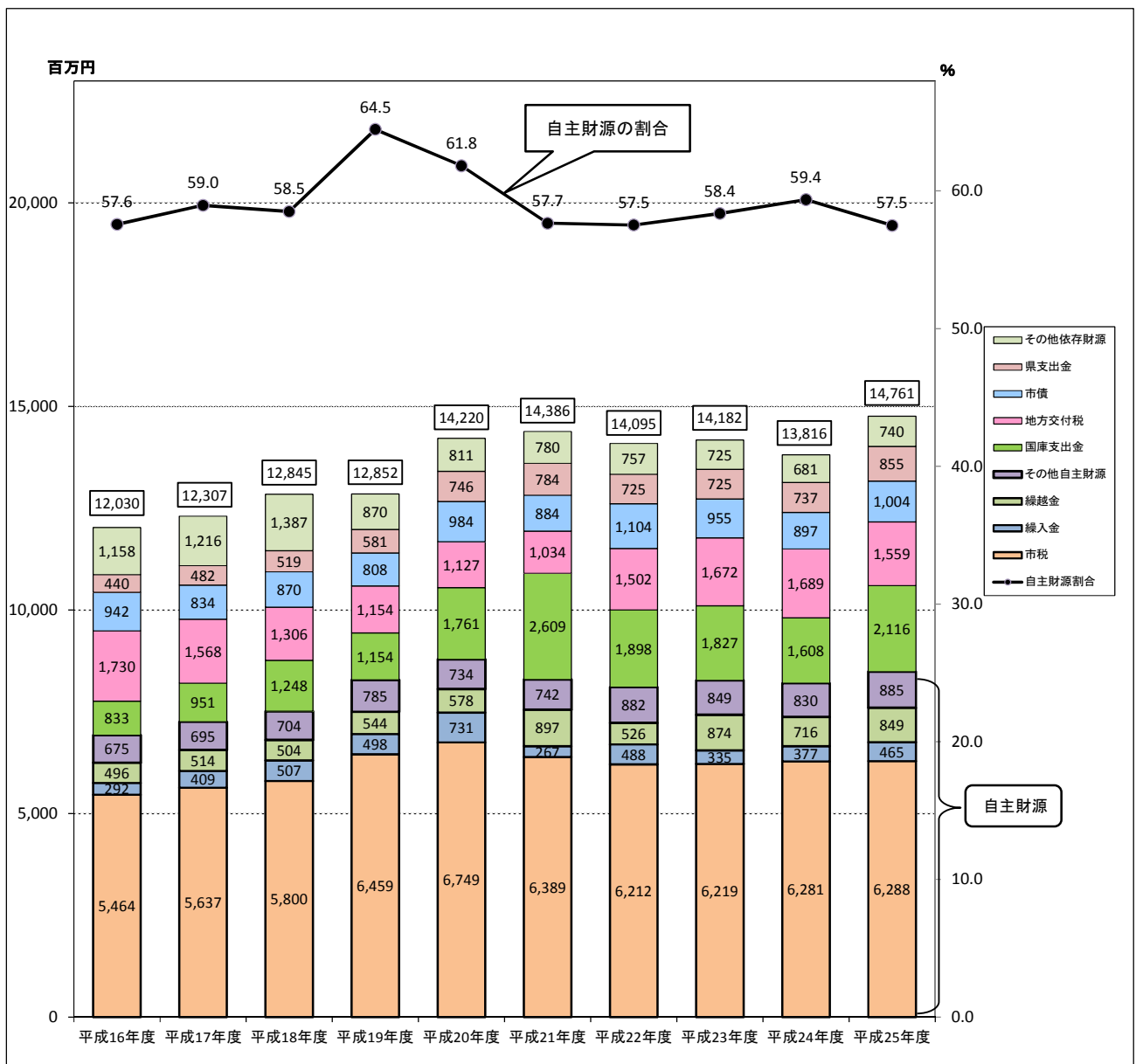




### 第3節 岩倉市の財政状況

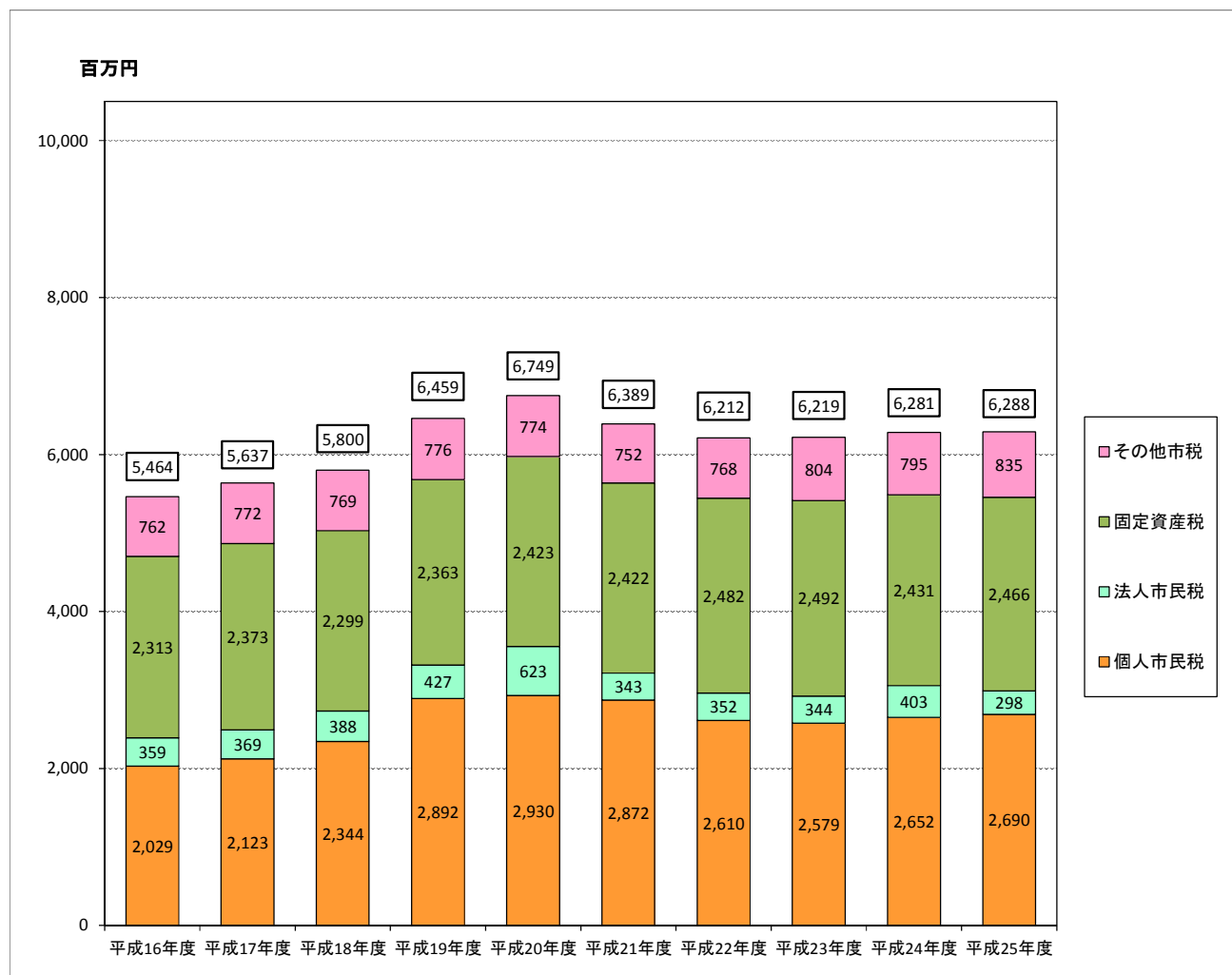
#### (1) 歳入の状況

本市の普通会計の歳入は平成19年度までは120億円台で推移していましたが、平成20年度から25年度にかけては140億円程度で推移しています。これは平成19年度の税制改正により市税が増加したこと、北街区市街地再開発事業に関連した補助金の増加や、国が景気対策として実施した臨時交付金、定額給付金事業補助金などにより、国庫支出金が増加したためです。内訳をみると市税収入は歳入総額の40%～50%ほどとなり、次いで地方交付税及び国庫支出金の割合が高くなっています。また、歳入のうち自主財源の占める割合は60%程度、平成25年度は57.5%となっています。平成25年度の県内都市平均が64.6%となっており県内平均を下回っています。



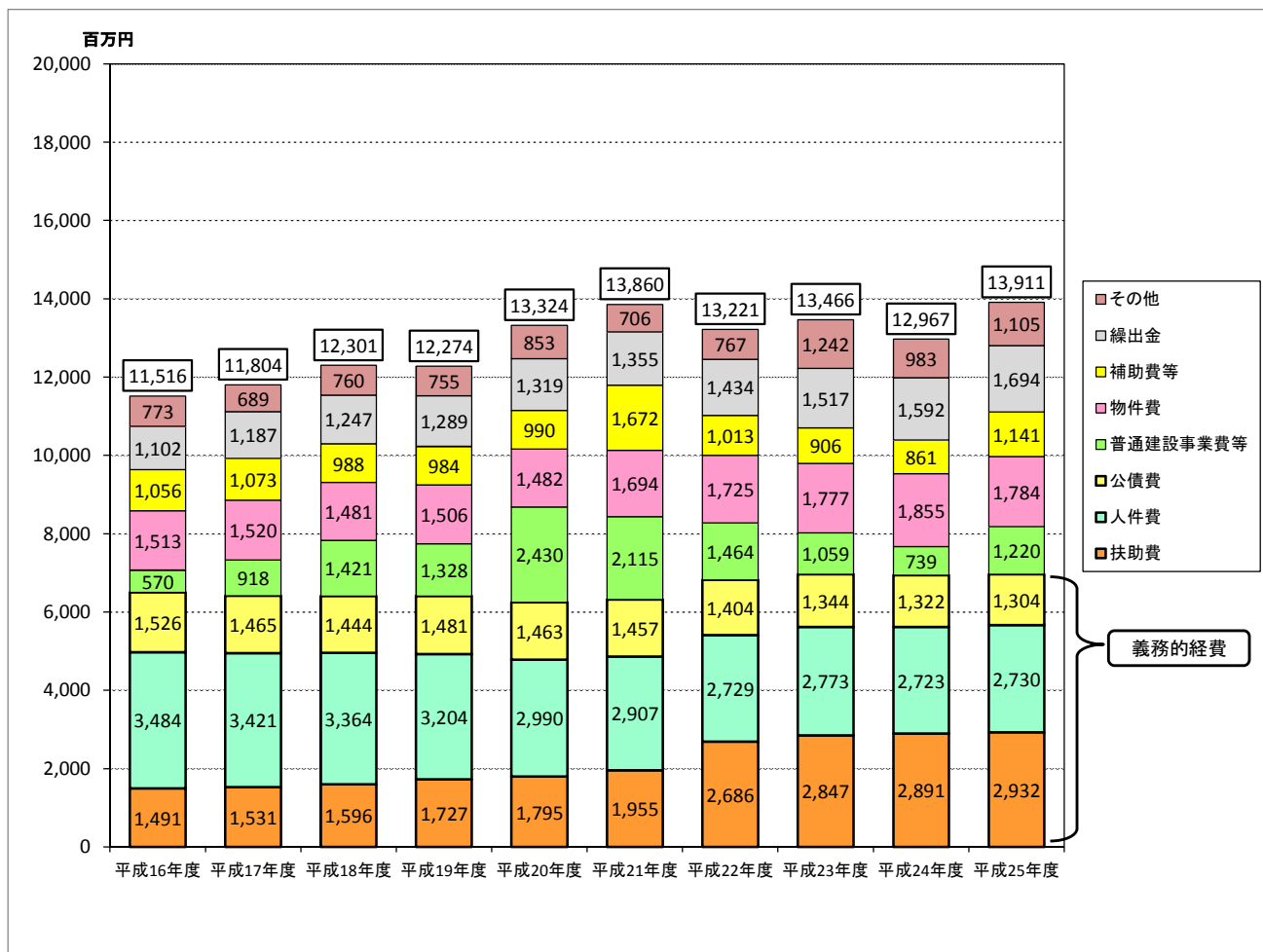
## ( 2 ) 市税の状況

市税の推移を見ると平成 18 年度まで 58 億円ほどで推移し、平成 19 年度から平成 20 年度にかけて 67 億円ほどまで増加したあとは 62 億円から 63 億円で推移しています。主な特徴としては、個人市民税と固定資産税が市税全体で大きな割合を占め、それぞれ市税全体の 40% 程度となっています。法人市民税の割合が市税全体の 5～6% 程となっており、県内都市平均が 7.8% となっているのに対しその割合は低くなっています。景気の動向に大きく左右されない一方、大きな税収増は見込めないこととなります。



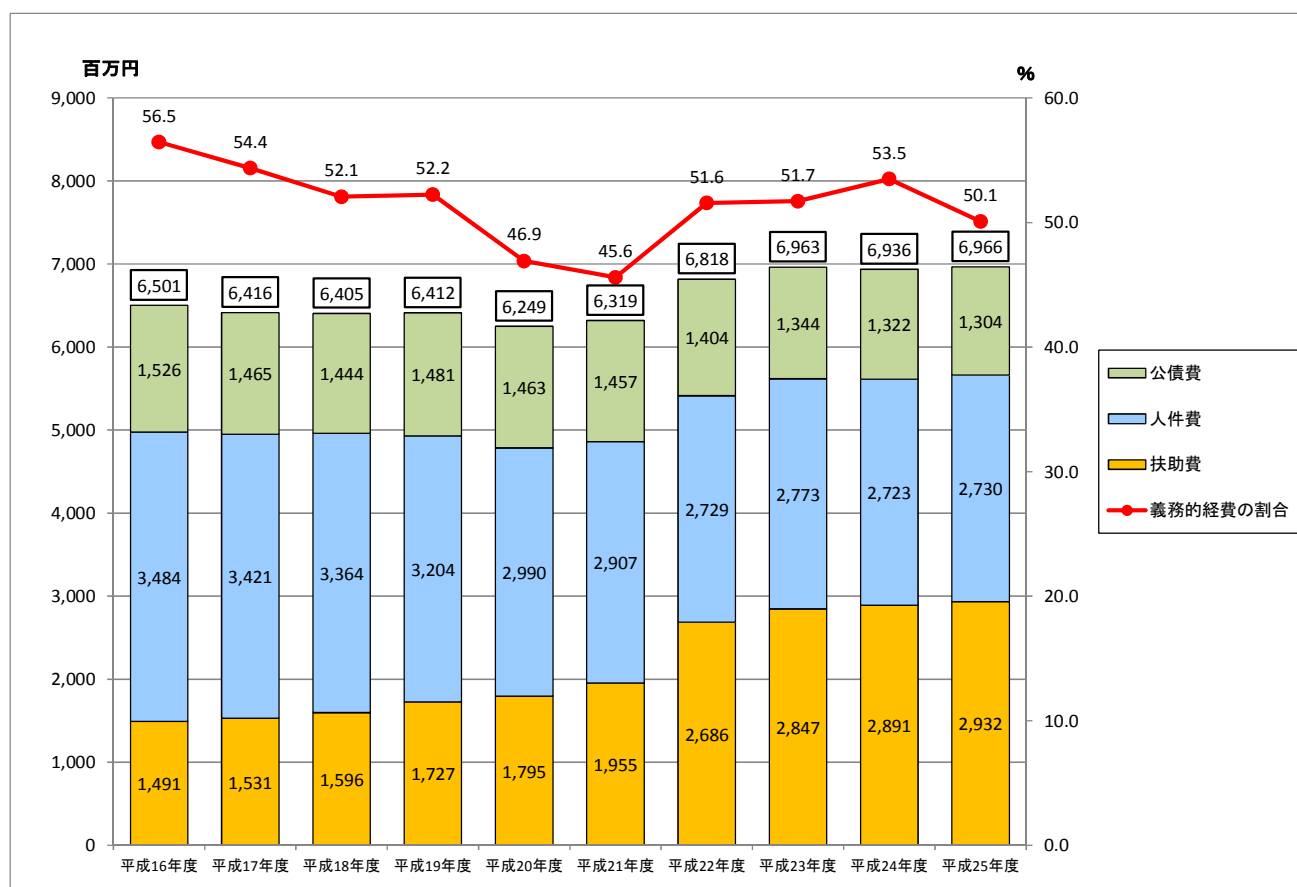
### (3) 歳出の状況

本市の普通会計の歳出規模は平成19年度までは120億円前後で推移していましたが、平成20年度以降増加し、平成25年度は約139億円となっています。平成20年度から平成21年度にかけては北街区市街地再開発事業や生涯学習センター建設事業、小中学校の耐震対策事業等により普通建設事業費が増加したため、歳出規模も大きくなっています。また、扶助費については年々増加しており、平成16年度から平成25年度にかけての10年間でほぼ倍増となっています。



## (4) 義務的経費の状況

義務的経費は歳出全体の5割前後を占め、平成16年度と平成25年度を比較してみると、約4.6億円(+7.1%)増となっています。その内訳を見ると、人件費は平成16年度から平成25年度にかけて約7.5億円(△21.6%)減少、公債費も約2.2億円(△14.6%)減少となっていますが、生活保護費や高齢者への支援などの支出である扶助費は14.4億円(+96.7%)増加となっています。扶助費については少子高齢化の進展とともに今後も増加していくことが見込まれます。また、人件費のさらなる減少は見込めないことから義務的経費は増加し、財政はさらに厳しくなっていくことが見込まれます。

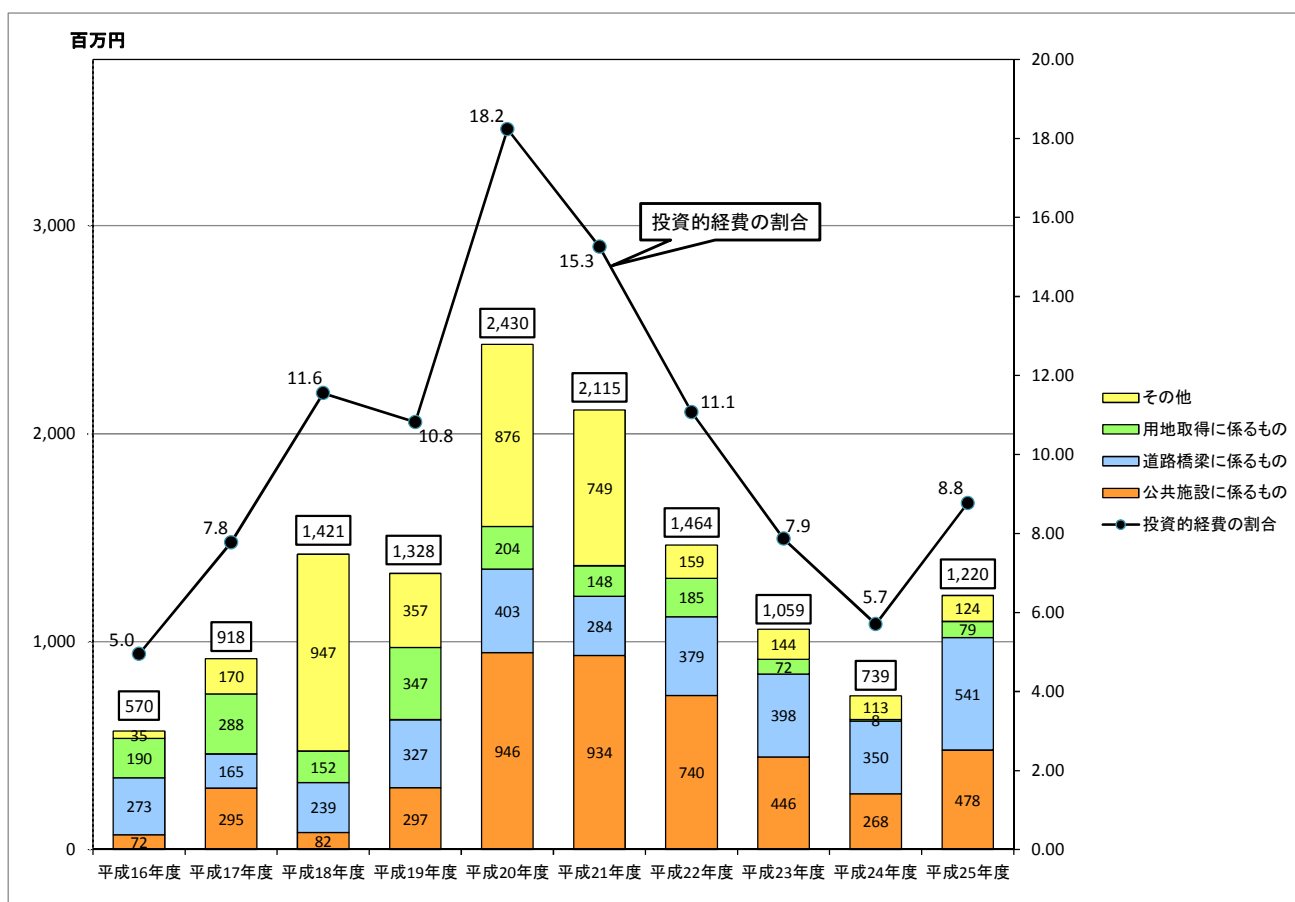


## (5) 投資的経費の状況

公共施設の建設等に用いられる投資的経費については、平成20年度、21年度に北街区市街地再開発事業や生涯学習センター建設事業、小中学校の耐震対策事業等により増加しています。

歳出全体に占める投資的経費の割合は直近5年間の平均では9.8%で、近隣市町と比較して少なくなっています。しかし、今後は新学校給食センターの建設や学校施設の大規模改修などの事業が予定されており、投資的経費の増加が見込まれます。

今後、義務的経費が増加し、歳入の大きな増加も見込めない状況では投資的経費に充当できる財源の増加も期待できません。さらに、今後は多くの施設で大規模改修や建て替えの時期を迎えることが予想されますので、財政運営が非常に厳しくなることが予想されます。

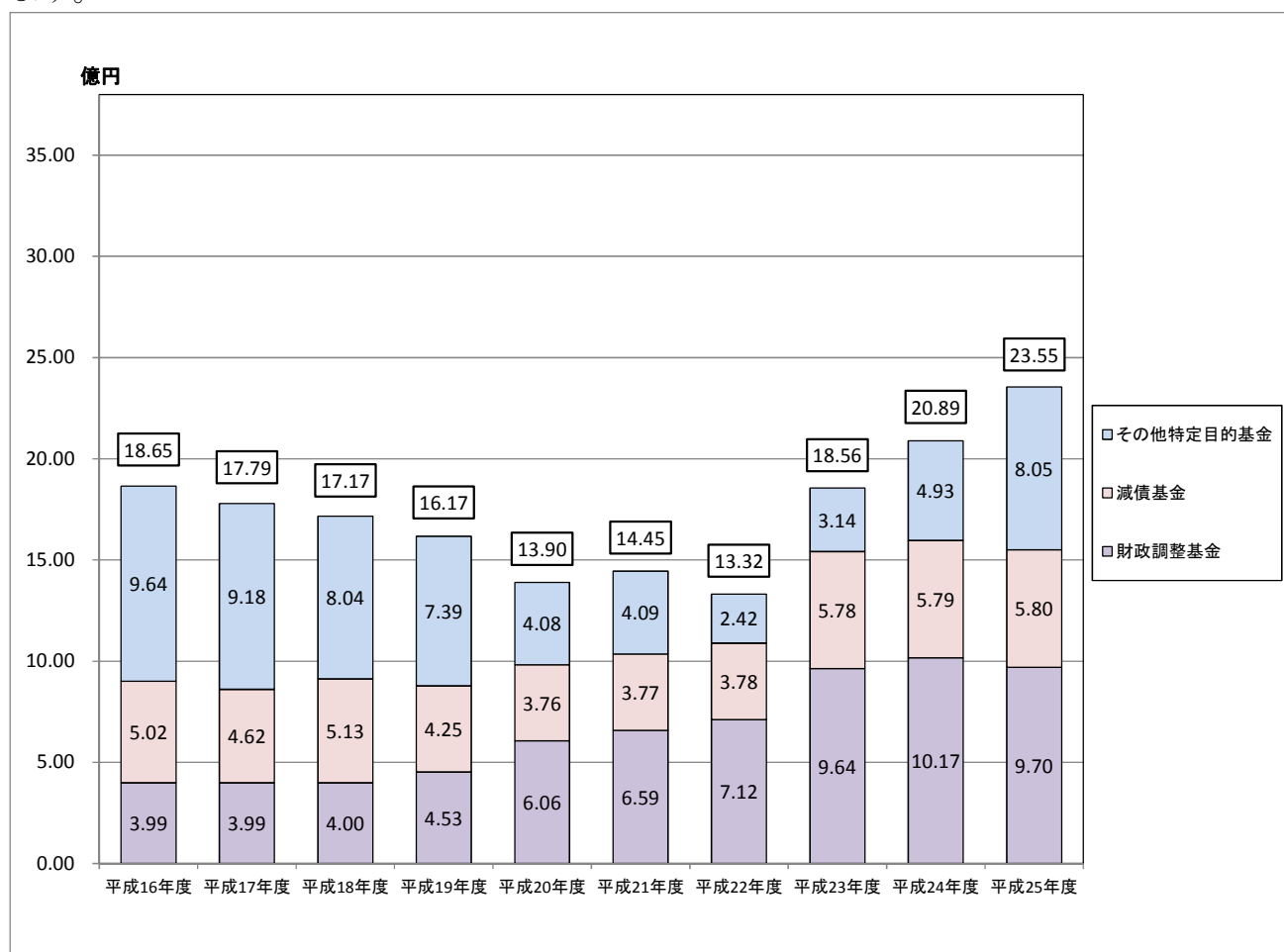


(参考) 近隣市町の投資的経費の割合

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	(単位: %)
						平均
犬山市	16.0	22.4	11.7	11.2	16.9	15.6
小牧市	16.8	18.2	15.1	18.0	10.4	15.7
江南市	12.5	12.5	11.5	11.2	11.4	11.8
扶桑町	8.3	7.4	8.9	12.2	7.6	8.9
大口町	17.9	23.4	13.5	29.6	12.7	19.4
岩倉市	15.3	11.1	7.9	5.7	8.8	9.8

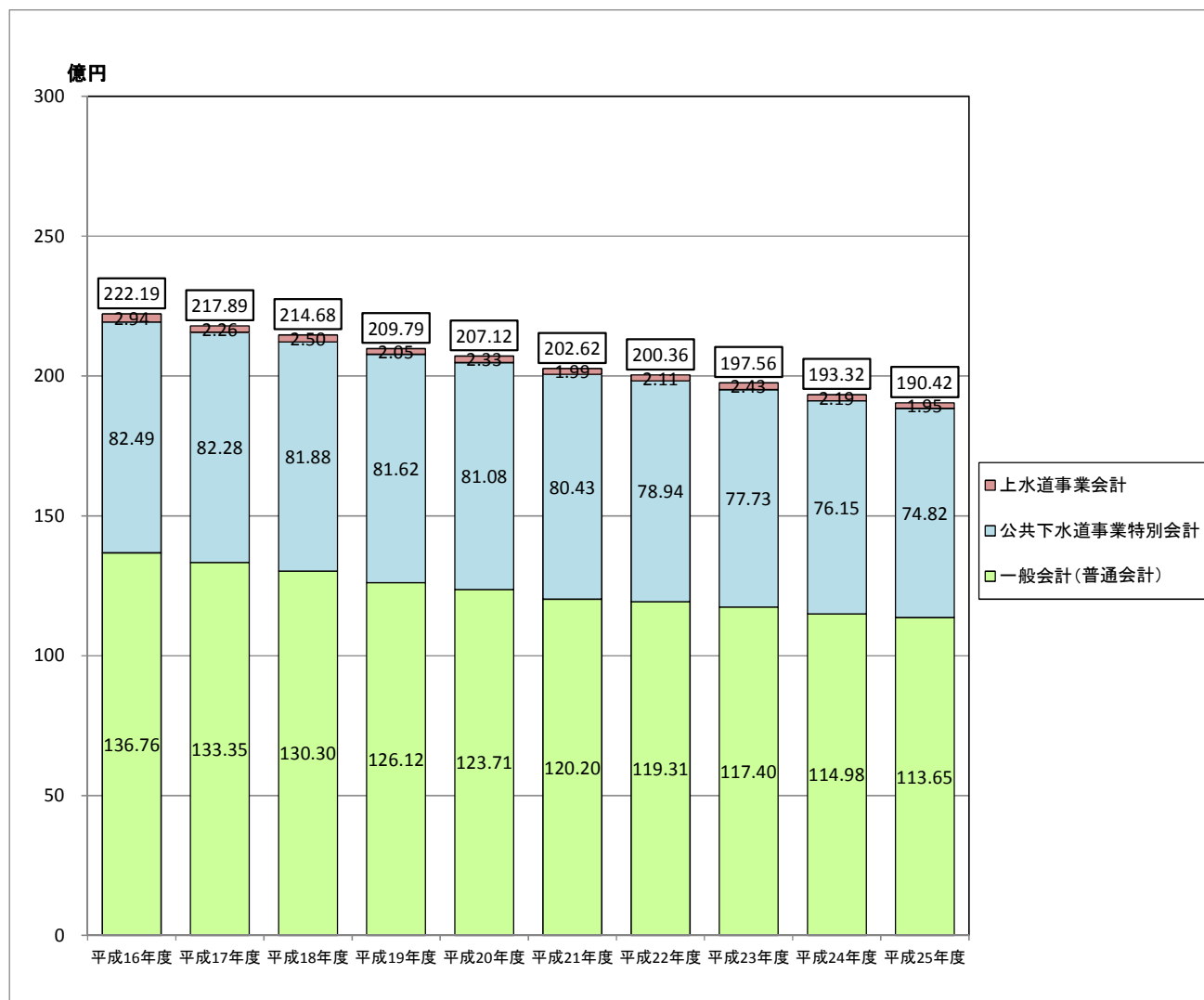
## ( 6 ) 基金の状況

基金の残高については平成 23 年度以降増加しており、平成 25 年度末現在で 23 億 5,500 万円ほどとなっています。これは平成 19 年度から小牧岩倉衛生組合のごみ焼却場建設事業の実施による負担金の増加への対応のため財政調整基金への積み立てを実施したこと、平成 23 年度から学校給食センター建設のための基金への積み立てを実施したこと、平成 24 年度から公共施設整備基金への積み立てを開始したことによるものです。今後は学校給食センターの建設が平成 28 年度の完成に合わせて基金を取り崩すため、基金残高の減少が予想されます。



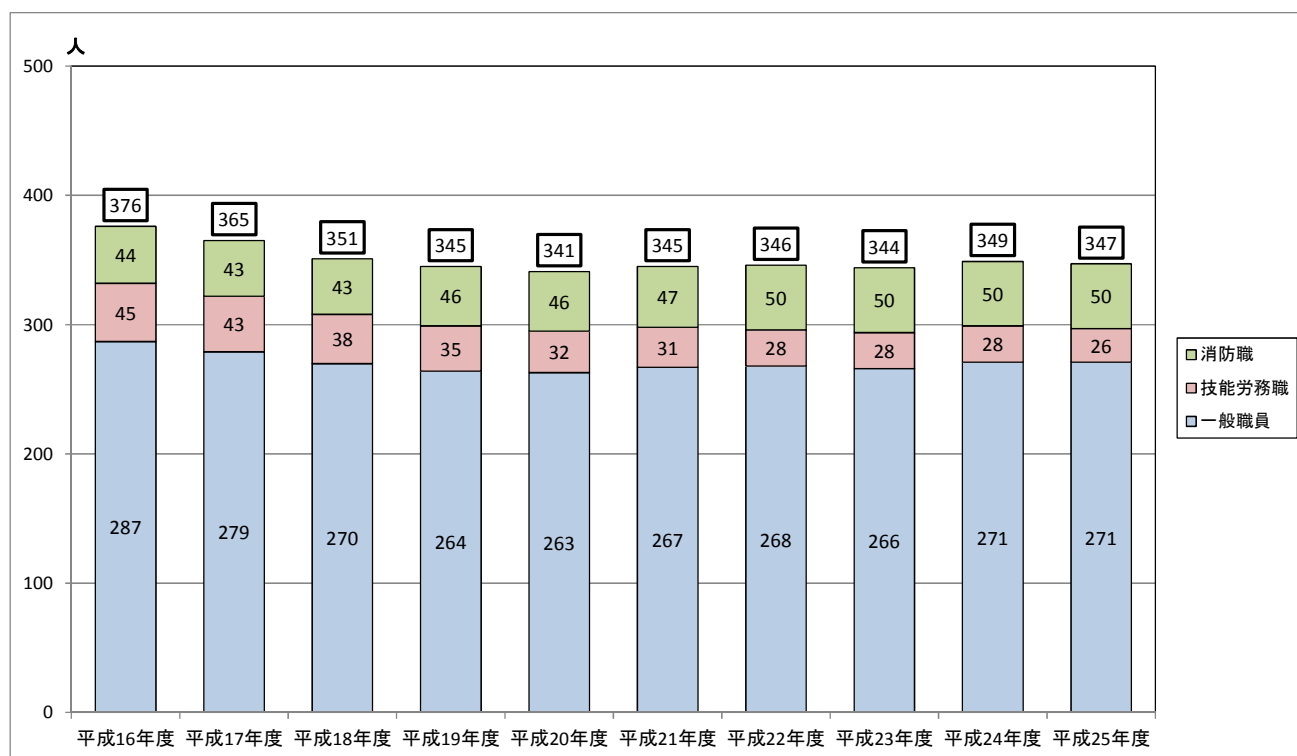
## (7) 市債の状況

市債の残高は平成15年度末の225億3,100万円をピークに減少を続け、平成25年度末現在で190億4,200万円ほどとなっています。近年は地方債の借入を抑制していることもあり残高を減少させてきました。しかし、今後は給食センター建設事業や学校施設の大規模改修に伴う起債の借入が予想され、起債残高は増加していくことが見込まれます。



## ( 8 ) 職員数の状況

本市では平成7年に定員適正化計画を策定し、行政需要等の変化に合わせて見直しを行いながら、職員の定員管理を実施してきました。また、平成17年度に岩倉市行政改革集中改革プランを策定し、平成21年度までの5年間で取り組み目標を定め、さらなる職員数の削減を実施してきました。その結果、職員数は平成16年度から平成25年度にかけて29人(△7.7%)の減少となりました。





## 第2章 岩倉市の公共施設

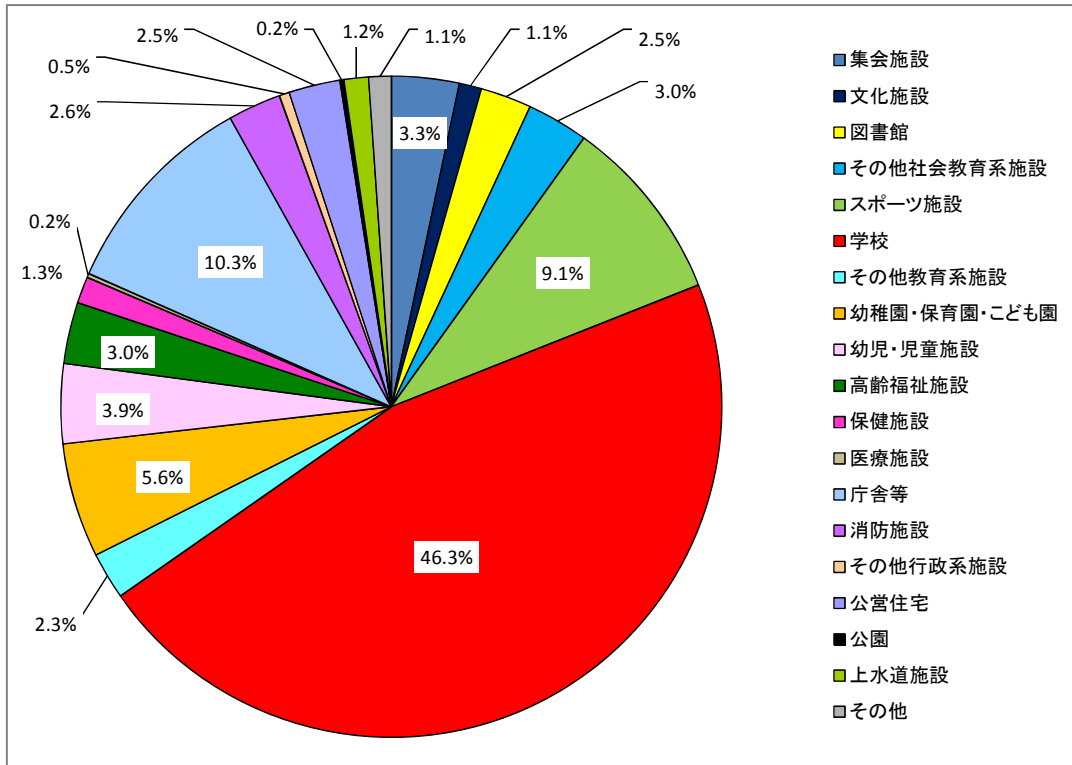
### 第1節 公共施設の概要

#### (1) 公共施設の保有状況

平成25年度末時点で本市が保有する公共施設は76施設、123棟、延床面積101,273㎡となっています（延床面積が30㎡以下の建物、自転車置き場や倉庫などの簡易な建物及び鳥居建民家を除く）。これを市民一人当たりで換算すると、約2.12㎡保有していることとなります。これは全国平均の3.42㎡、同規模の自治体（人口45,000人～47,500人）の平均4.47㎡と比べて大きくありません。

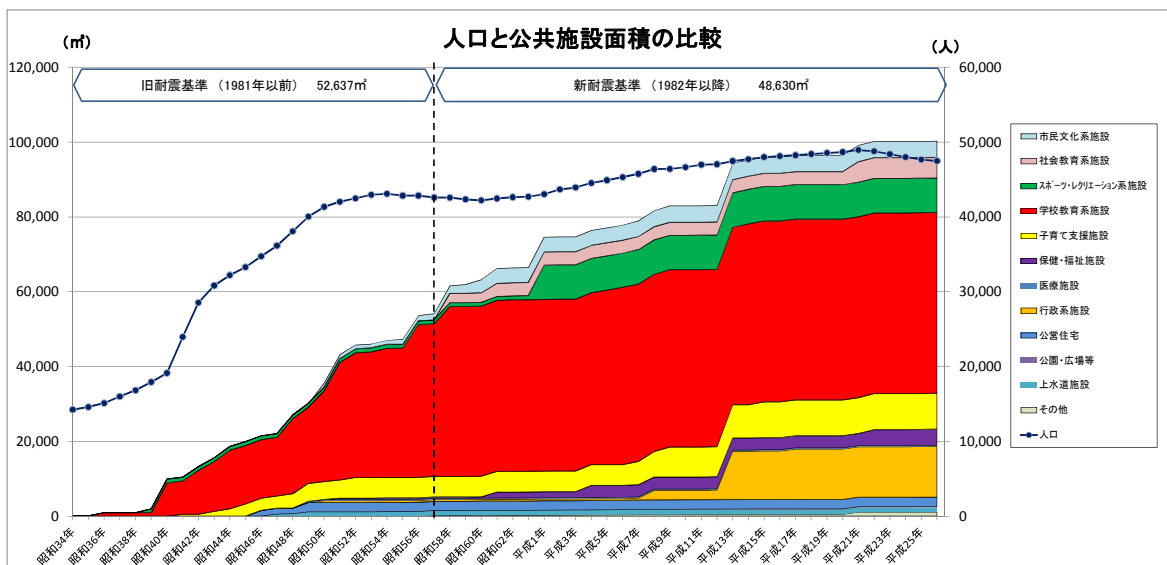
公共施設の延床面積の割合を用途別に見ていくと、学校施設が最も多くの割合を占めており、市全体の公共施設の割合の46.3%を占めています。次いで庁舎等が10.3%となっています。

大分類	中分類	施設数	棟数	延床面積 (㎡)	構成比率 (%)
市民文化系施設	集会施設	14	14	3,307	3.3%
	文化施設	1	1	1,088	1.1%
社会教育系施設	図書館	1	1	2,521	2.5%
	その他社会教育系施設	2	2	3,000	3.0%
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	4	5	9,213	9.1%
学校教育系施設	学校	7	44	46,904	46.3%
	その他教育系施設	1	1	2,367	2.3%
子育て支援施設	幼稚園・保育園・こども園	7	12	5,621	5.6%
	幼児・児童施設	9	9	3,974	3.9%
保健・福祉施設	高齢福祉施設	3	3	3,043	3.0%
	保健施設	1	1	1,274	1.3%
医療施設	医療施設	1	1	248	0.2%
行政系施設	庁舎等	2	2	10,455	10.3%
	消防施設	6	7	2,651	2.6%
	その他行政系施設	1	1	518	0.5%
公営住宅	公営住宅	1	3	2,519	2.5%
上水道施設	上水道施設	5	6	1,262	1.2%
公園	公園	3	3	184	0.2%
その他	その他	7	7	1,124	1.1%
合計		76	123	101,273	100.0%



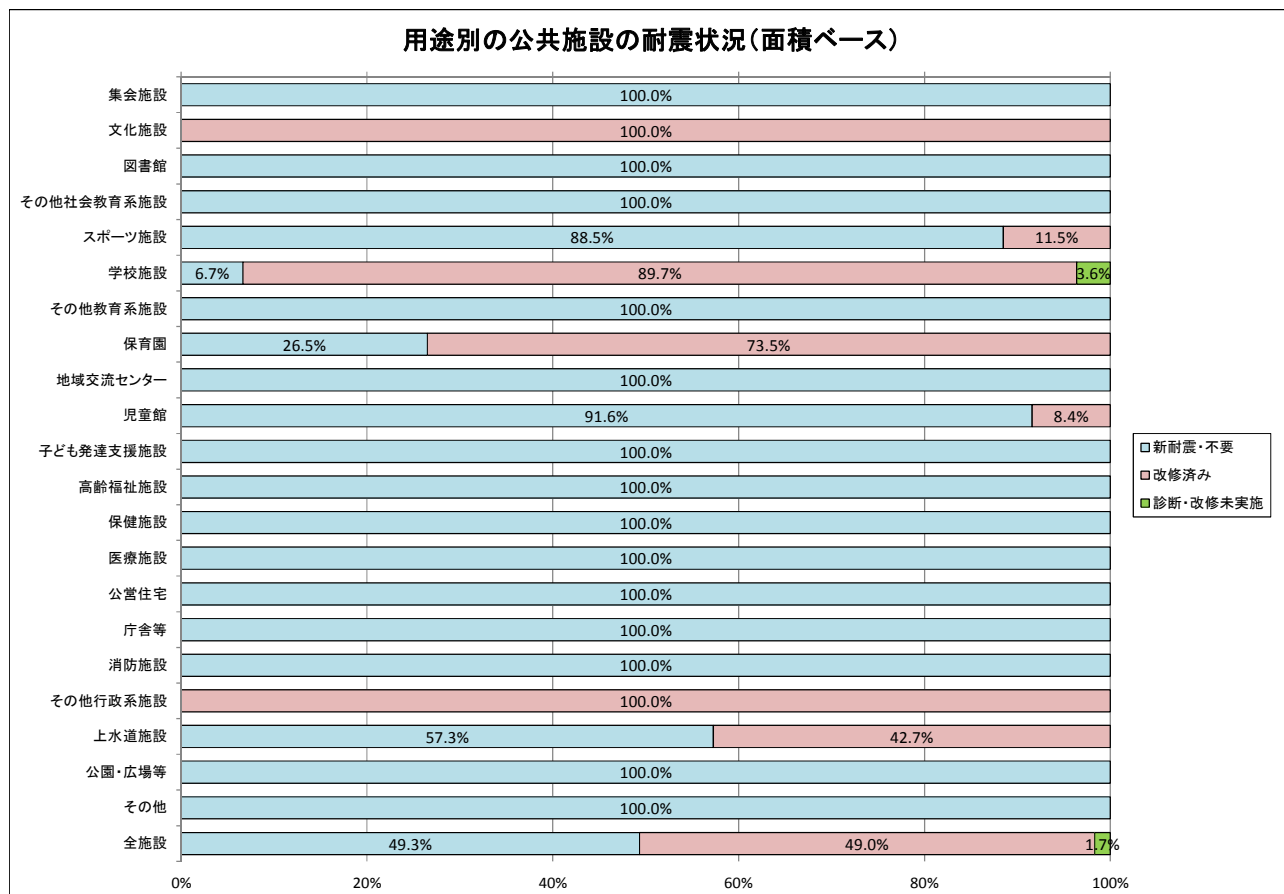
## (2) 人口と公共施設面積の比較

本市の人口は、岩倉団地の建設があった昭和40年度以降、昭和50年代にかけて大きく増加し、それ以降は緩やかに増加、あるいはほぼ横ばいで推移しています。平成26年度までの公共施設の整備状況としては、人口の急激な増加が始まった昭和41年度から昭和58年度にかけて、集中的に学校教育施設の整備が行われてきました。昭和59年度以降は総合体育文化センターの建設や市庁舎の建て替え、最近では多世代交流センターの建設など、単年度あるいは短期間で施設整備事業はありましたが、現段階では公共施設整備のピークは過ぎていると言えます。



### (3) 公共施設の耐震性能の状況

旧耐震基準である昭和56年（1981年）5月以前に建設された施設は52,637㎡で全体の52.0%、そのうち耐震対策が未実施のものは、常時人が利用していない学校のクラブハウスやプール附属棟などで1.7%となっています。市の施設のうち98%以上の施設が耐震性能を有しており、耐震対策はほぼ完了しています。



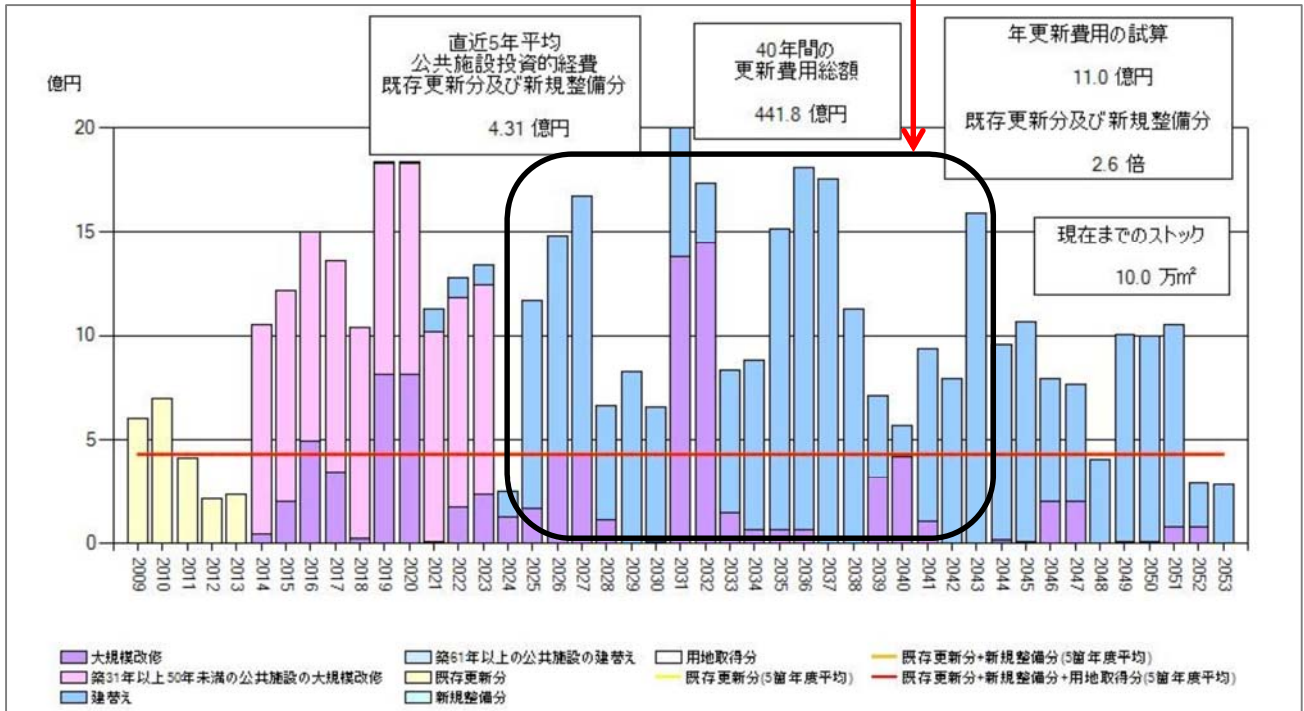
## 第2節 将来のライフサイクルコストの試算

本市の公共施設を既存のまま維持する場合に必要な将来の建替・改修費用を試算しました。

- ・建替えが必要となる年数を建築後 60 年とし、建築後 30 年経過時に 2 年間で大規模改修を行うものとしました。
- ・調査時点で建築後 31 年以上 60 年未満の施設については、今後 10 年間で均等に大規模改修を行うものと仮定しました。
- ・更新費用については建物の延床面積に施設分類ごとの更新単価（下表）をかけることで、年度ごとに大規模改修、施設更新にかかる費用を推計しました。なお単価については、財団法人地域総合整備財団の公共施設更新費用資産ソフトの単価を使用しました。

	大規模改修	建て替え
市民文化系施設	25 万円/m <sup>2</sup>	40 万円/m <sup>2</sup>
社会教育系施設	25 万円/m <sup>2</sup>	40 万円/m <sup>2</sup>
スポーツ・レクリエーション施設	20 万円/m <sup>2</sup>	36 万円/m <sup>2</sup>
学校教育系施設	17 万円/m <sup>2</sup>	33 万円/m <sup>2</sup>
子育て支援施設	17 万円/m <sup>2</sup>	33 万円/m <sup>2</sup>
保健・福祉施設	20 万円/m <sup>2</sup>	36 万円/m <sup>2</sup>
医療施設	25 万円/m <sup>2</sup>	40 万円/m <sup>2</sup>
公営住宅	17 万円/m <sup>2</sup>	28 万円/m <sup>2</sup>
行政系施設	25 万円/m <sup>2</sup>	40 万円/m <sup>2</sup>
公園	17 万円/m <sup>2</sup>	33 万円/m <sup>2</sup>
その他	20 万円/m <sup>2</sup>	36 万円/m <sup>2</sup>

昭和 40 年代から昭和 50 年代にかけて建設された学校教育施設を中心とした公共施設が、この時期に次々と更新時期をむかえ、建て替えが必要となる。



公共施設の更新費用の増加は平成 30 年代後半（2020 年代）から始まり、平成 50 年代前半（2040 年代）まで続きます。これは昭和 40 年代から昭和 50 年代にかけて整備された学校教育施設が耐用年数となる築 60 年を経過することで施設の更新が必要となるためです。これらの施設を同規模で更新とした場合、平成 25 年度から平成 65 年度までの 40 年間で 441.8 億円、平均して 1 年に 11.0 億円の費用が必要になると試算されます。直近 5 年間の公共施設への投資的経費が 4.31 億円となりますので、施設の更新にかかる費用が増加し、それだけ市の財政を圧迫することとなります。

### 第3節 公共施設を取り巻く課題

第1章及び第2章から、本市の公共施設を取り巻く課題として以下の点が挙げられます。

#### 〔課題1〕 少子高齢化の進行

- ◆本市の人口は平成21年度をピークに減少傾向となっています。また、年齢区分別の人口構成では、年少人口及び生産年齢人口は減少しているのに対し、老年人口については増加しています。
- ◆将来人口の予測でも全体の人口が減少する中で、年少人口及び生産年齢人口の割合はさらに減少するのに対し老年人口の割合は大きく増加し、一層少子高齢化が進行することが予想されます。

#### 〔課題2〕 厳しい財政状況

- ◆人件費、扶助費、公債費からなる義務的経費は増加傾向にあります。特に扶助費については高齢化の進展とともに今後も増加していくことが見込まれます。また、人件費のさらなる減少は見込めず、義務的経費は増加して行くことが見込まれます。よって投資的経費に回す財源の余裕がなくなることが予想されます。
- ◆市の歳入の40～50%を占める市税のうち、個人市民税が大きな割合を占めています。今後は生産年齢人口の減少が予想されているため、個人市民税の減少が予想されます。また、他の歳入についても大きな増加は見込めません。

#### 〔課題3〕 老朽化していく公共施設

- ◆現在保有している公共施設の多くは昭和40～50年代に建設された施設です。建設後30～40年が経過し老朽化が進行しています。今後は老朽化による大規模改修や建替等、施設の更新に多額の費用がかかることが予想されます。

これらの課題から、今後の人口動向や財政の見通し、さらには利用者のニーズに配慮しながら、公共施設の適正な配置が求められます。

## 第3章 施設分類ごとに見た現状と課題

この章では、市の公共施設の概要や老朽化、利用状況等の施設の情報を整理し、施設分類ごとに施設の現状と課題を整理します。

### 第1節 資料の構成

#### ① 施設概要

施設の設置目的や建設年度、延床面積等の設置状況を示し、どのような目的の施設がどこに配置されているか確認します。また、施設のバリアフリー設備の設置状況や耐震対策の状況も確認します。

なお耐震対策の状況については下表のとおり区分します。

区分	説明
不要	・新耐震基準（1982年以降）で建設されたもの ・旧耐震基準（1981年以前）で建設され、耐震診断の結果、耐震基準を満たしているもの
改修済	・旧耐震基準（1981年以前）で建設され、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていなかったため、耐震対策を実施したもの。
未対応	・旧耐震基準（1981年以前）で建設され、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていないが、耐震対策を実施していないもの。

#### ② 劣化状況

各施設の劣化状況を確認します。

劣化状況の指標としては、建物の築年数を耐用年数で割った「老朽化率」を用います。耐用年数は木造30年、非木造60年と設定します。

また、ここでは施設単位で分析を行いますが、複数の建物で構成される施設については、その施設で主となる建物のうち、もっとも建築年度が古いものの築年数を採用します。

#### ③ 利用状況

各施設の利用状況を確認します。

施設ごとに利用者や利用形態が異なるため、利用状況を確認するための指標は施設用途ごとに次の表のとおり設定します。

利用状況の数値は平成23年度から平成25年度の平均値を使用します。なお、1日平均利用者数は年間の利用者数を開館日数で割って算出します。

施設用途（大分類）	施設用途（中分類）	利用状況を確認するための指標
市民文化系施設	集会施設	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
	文化施設	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
社会教育系施設	図書館	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
	その他社会教育系施設	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
学校教育系施設	学校	・ 児童1人当たりの校舎面積
子育て支援施設	保育園	・ 園児1人当たりの園舎面積
	地域交流センター	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
	児童館	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
	子ども発達支援施設	・ 園児1人当たりの園舎面積
保健・福祉施設	高齢福祉施設	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
	保健施設	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
医療施設	診療所	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
公営住宅	公営住宅	・ 入居状況
行政系施設	庁舎等	—
	消防施設	・ 1日平均利用者数 ・ 面積当たりの1日平均利用者数
	その他行政系施設	—
上下水道施設	上水道施設	—
公園・広場等	公園・広場等	—
その他	その他	—

#### ④ コスト状況

各施設のコストについては、「施設維持コスト」「施設運営コスト」に分けて算出します。また、収入についても確認することで、市の負担状況を確認します。

コストは平成23年度から平成25年度の費用の平均値を使用します。なお各施設の管理運営に係る費用で比較するため、工事請負費は対象外としています。



⑤ ポートフォリオ分析

公共施設の状況を、品質（施設の劣化状況）、供給（施設の利用状況）、財務（コスト状況）の3つの評価項目で分析します。公共施設をこの3つの項目から分析する理由は以下の通りです。

評価項目		分析の観点
ハード	品質（劣化状況）	使用しやすい機能が維持されているか
ソフト	供給（利用状況）	効率的なサービスを提供できているか
	財務（コスト状況）	施設が適切な経費で運営されているか

これら3つの項目はいずれも公共施設を運用していくために満たすべき条件です。ほかの施設と比較して相対的にこれらの状況が悪い施設は、状況を改善するための方策が必要です。なお、ポートフォリオ分析に馴染まない施設用途や対象施設数が1つの施設用途については本分析の対象外とします。

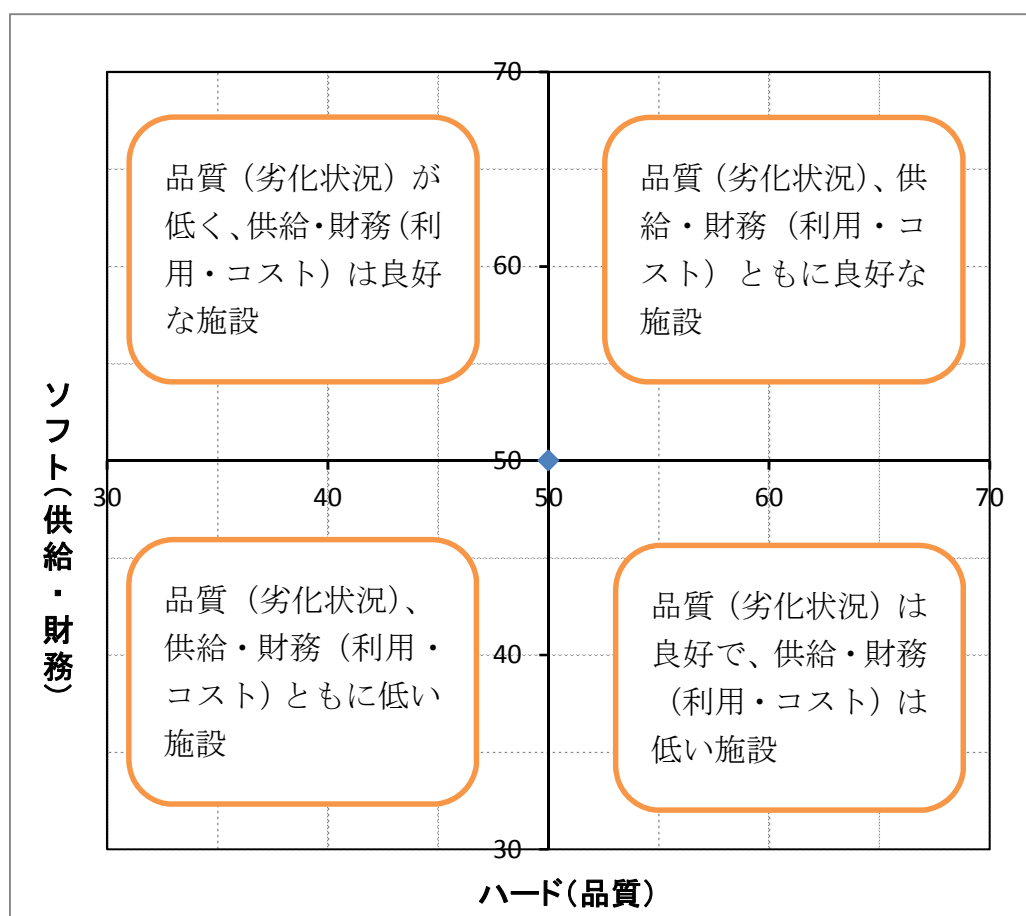
3つの評価項目はそれぞれ以下の考え方にに基づき評価を行い、それぞれ偏差値を算出して、用途別にポートフォリオ図に示しました。

評価項目	説明
品質（劣化状況）	施設を構成する建物の「経過年数」「劣化調査の結果」「耐震性能」「バリアフリーの状況」を点数化しています。点数は「経過年数」は0～5点、「劣化調査の結果」は0～3点「耐震性能」「バリアフリーの状況」は0～1点で算出しています。 なお、品質（劣化状況）の偏差値はすべての施設を対象に算出しています。
供給（利用状況）	施設用途に応じた単位（面積当たりの1日平均利用者数など）をもとに偏差値を算出しています。 なお、供給（利用状況）の偏差値は同一用途内で偏差値を算出しています。
財務（コスト状況）	施設用途に応じて単位（利用者1人あたりのコストなど）をもとに偏差値を算出しています。 なお、財務（コスト状況）の偏差値は同一用途内で偏差値を算出しています。

また、ソフトの評価にあたっては施設用途の性質により以下の3つに分類し、分類ごとに供給（利用状況）と財務（コスト状況）配分し、評価を行いました。

分 類	性質および得点配分
義務的施設	行政が担うべき施設 （庁舎等、消防施設、その他行政系施設、上水道施設） [供給偏差値×1=ソフトの偏差値]
準義務的施設	民間でも提供事例はあるが、基本的に行政で担うべき施設 （集会施設、文化施設、図書館、その他社会教育系施設、学校、保育園、子ども発達支援施設、高齢福祉施設、保健施設、公営住宅） [財務評価点×0.3+供給評価点×0.7=ソフトの偏差値]
その他施設	上記以外の施設 [財務評価点×0.5+供給評価点×0.5=ソフトの偏差値]

ハード（品質）の状況を横軸、ソフト（供給・財務）の状況を縦軸とし、偏差値50点を中心としたグラフに各施設の偏差値をプロットし、各施設の状況を把握します。



※②～④のグラフでは、北部地域を赤、中部地域を黄、南部地域を青で表示しています。

## 第2節 施設分類ごとの現状

### (1) 集会施設

#### ① 施設概要

地域住民の福祉を増進するとともに、地域活動の育成及び助長を図るために、集会施設を14施設設置しています。施設の運営費については地元負担となっています。

バリアフリー設備については、ほぼ全ての施設で未設置となっています。

耐震対策の状況については、大市場町公会堂は耐震診断の結果、耐震基準を満たしていると判定されました。その他の施設については新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
八期会館	昭和58	330	×	×	×	×	×	×	不要
神野会館	昭和60	138	—	×	×	×	×	×	不要
石仏会館	昭和61	330	×	×	×	×	×	×	不要
井上会館	昭和61	139	—	×	×	×	×	×	不要
大市場町公会堂	昭和55	308	×	×	×	×	×	×	不要
東町会館	昭和59	329	×	×	×	×	×	×	不要
大市場会館	昭和60	329	×	×	×	×	×	×	不要
泉会館	昭和60	140	×	×	×	×	×	×	不要
中野会館	昭和60	140	—	×	×	×	×	×	不要
東新町公会堂	昭和61	447	×	×	×	×	×	×	不要
曾野町公会堂	昭和57	310	×	×	×	×	×	×	不要
北島多目的センター	平成7	196	×	×	○	×	×	×	不要
野寄町公会堂	平成8	81	×	×	×	×	×	×	不要
川井町文化会館	平成9	90	×	×	×	×	×	×	不要

## ② 劣化状況

集会施設の老朽化率を見ると、北島多目的センター、野寄町公会堂、川井町文化会館は比較的新しい施設といえます。それに対し、大市場町公会堂や曾野町公会堂、八劔会館は老朽化率が50%を超えており、老朽化が進行しているといえます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
八劔会館	330	昭和58	52
神野会館	138	昭和60	48
石仏会館	330	昭和61	47
井上会館	139	昭和61	47
大市場町公会堂	308	昭和55	57
東町会館	329	昭和59	50
大上市場会館	329	昭和60	48
泉会館	140	昭和60	48
中野会館	140	昭和60	48
東新町公会堂	447	昭和61	48
曾野町公会堂	310	昭和57	53
北島多目的センター	196	平成7	32
野寄町公会堂	81	平成8	30
川井町文化会館	90	平成9	28

## ③ 利用状況

面積当たりの1日平均利用者数を見ると、曾野町公会堂、東町会館、大上市場会館は利用者数が多く、施設がよく利用されているといえます。一方、川井町文化会館は1日平均利用者数も0.3人で、利用が少ない状況といえます。

施設名称	利用者数(人)				1日平均 利用者数 (人)	面積当たりの 1日平均利用者数 (人)
	H23	H24	H25	平均		
八劔会館	9,137	9,279	7,691	8,702	23.8	0.072
神野会館	1,849	1,893	1,756	1,833	5.0	0.036
石仏会館	1,944	2,988	3,013	2,648	7.3	0.022
井上会館	1,670	1,380	1,498	1,516	4.2	0.030
大市場町公会堂	3,035	3,143	2,802	2,993	8.2	0.027
東町会館	13,230	9,565	9,252	10,682	29.3	0.089
大上市場会館	13,006	14,019	11,005	12,677	34.7	0.105
泉会館	519	1,277	1,256	1,017	2.8	0.020
中野会館	323	756	445	508	1.4	0.010
東新町公会堂	7,420	6,047	5,671	6,379	17.5	0.039
曾野町公会堂	10,259	9,855	8,248	9,454	25.9	0.084
北島多目的センター	800	623	662	695	1.9	0.010
野寄町公会堂	—	—	—	—	—	—
川井町文化会館	150	95	101	115	0.3	0.003

※野寄町公会堂については利用人数の記録がないため、1日平均利用者数及び面積当たりの1日平均利用者数を算出していません。

#### ④ コスト状況

利用者一人当たりのコストを見ると川井町文化会館、中野会館のコストが高くなっています。施設の利用者が少ないため、1人当たりのコストがかかっていると考えられます。また面積1㎡当たりのコストでは曾野町公会堂のコストが高くなっています。施設の修繕を実施しているため、コストがかかっていると考えられます。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
八剣会館	2,850	0	2,850	0	2,850
神野会館	35,797	0	35,797	0	35,797
石仏会館	26,741	0	26,741	0	26,741
井上会館	26,061	0	26,061	0	26,061
大市場町公会堂	35,858	0	35,858	0	35,858
東町会館	29,517	0	29,517	0	29,517
大上市場会館	96,871	0	96,871	0	96,871
泉会館	19,033	0	19,033	0	19,033
中野会館	18,556	0	18,556	0	18,556
東新町公会堂	106,968	0	106,968	0	106,968
曾野町公会堂	216,469	0	216,469	0	216,469
北島多目的センター	7,323	0	7,323	0	7,323
野寄町公会堂	745	0	745	0	745
川井町文化会館	3,958	0	3,958	0	3,958

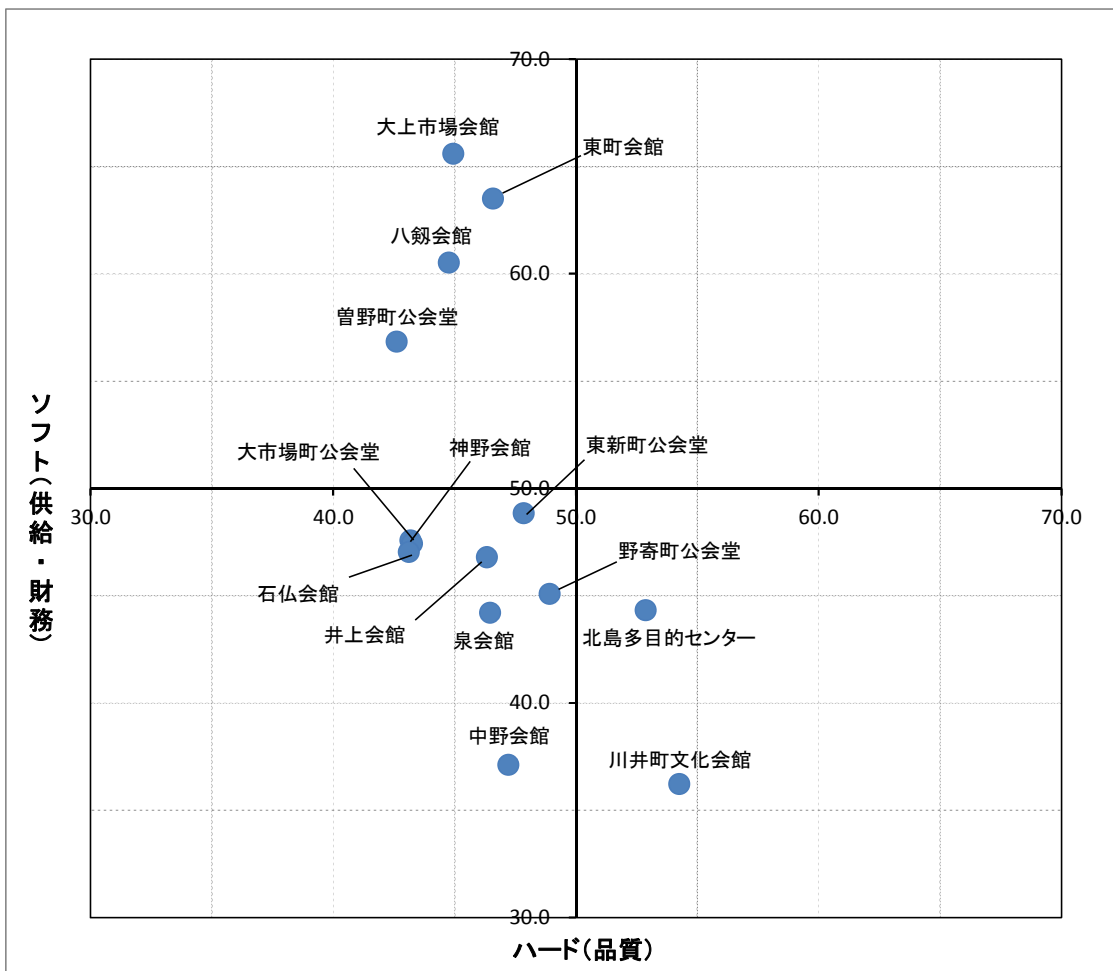
施設名称	利用者1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
八剣会館	0	9
神野会館	20	259
石仏会館	10	81
井上会館	17	186
大市場町公会堂	12	116
東町会館	3	90
大上市場会館	8	294
泉会館	19	136
中野会館	37	133
東新町公会堂	17	239
曾野町公会堂	23	698
北島多目的センター	11	37
野寄町公会堂	—	9
川井町文化会館	34	44

※野寄町公会堂については利用人数の記録がないため、利用者1人当たりのコストは算出していません。

⑤ ポートフォリオ分析

ハード（品質）については比較的建築年度の新しい北島多目的センター、川井町文化会館を除き偏差値が 50 以下となっており、施設の老朽化が進んでいます。野寄町公会堂については、劣化調査で施設の劣化が見られたため同時期に建設された施設と比べ偏差値が低くなっています。供給（ソフト）については施設によって大きなバラつきがありますが、利用者の多い施設については偏差値が高くなっています。反対に川井町文化会館や中野会館など、利用の少ない施設は偏差値が低くなっています。

施設名称	ハード(品質)						ソフト(供給・財務)						
	経過年数	劣化調査結果	耐震性能	バリアフリーの状況	合計	偏差値	ソフト(供給)			ソフト(財務)			偏差値
							面積当たりの1日平均利用者数(人)	偏差値	偏差値×0.7	利用者1人当たりのコスト(円)	偏差値	偏差値×0.3	
東町会館	2.40	1.62	1.00	0.00	5.02	46.6	0.089	64.4	45.1	3	61.5	18.4	63.5
泉会館	2.50	1.50	1.00	0.00	5.00	46.5	0.020	43.2	30.2	19	47.1	14.1	44.3
中野会館	2.50	1.62	1.00	0.00	5.12	47.2	0.010	40.1	28.1	37	31.1	9.3	37.4
大市場町公会堂	2.10	1.38	1.00	0.00	4.48	43.2	0.027	45.4	31.8	12	53.2	16.0	47.8
北島多目的センター	3.35	1.50	1.00	0.17	6.02	52.9	0.010	40.1	28.1	11	54.5	16.3	44.4
野寄町公会堂	3.40	0.99	1.00	0.00	5.39	48.9	—	37.0	25.9	0	63.9	19.2	45.1
川井町文化会館	3.50	1.74	1.00	0.00	6.24	54.3	0.003	38.0	26.6	34	33.1	9.9	36.5
東新町公会堂	2.60	1.62	1.00	0.00	5.22	47.9	0.039	49.1	34.3	17	48.9	14.7	49.0
八劔会館	2.35	1.38	1.00	0.00	4.73	44.8	0.072	59.2	41.5	0	63.7	19.1	60.6
神野会館	2.50	0.99	1.00	0.00	4.49	43.3	0.036	48.1	33.7	20	46.4	13.9	47.6
石仏会館	2.60	0.87	1.00	0.00	4.47	43.1	0.022	43.8	30.7	10	54.9	16.5	47.2
井上会館	2.60	1.38	1.00	0.00	4.98	46.3	0.030	46.3	32.4	17	41.5	12.4	44.8
大上市場会館	2.50	1.26	1.00	0.00	4.76	45.0	0.105	69.4	48.6	8	57.1	17.1	65.7
曾野町公会堂	2.25	1.14	1.00	0.00	4.39	42.6	0.084	62.9	44.0	23	43.4	13.0	57.0



## (2) 文化施設

### ① 施設概要

市民による自主的な公益的活動及び地域自治活動の支援、子育て支援並びに教育、文化、レクリエーション活動等を通じた市民の交流の促進を図るため、市民プラザを設置しています。また、指定管理者制度により運営を行っています。

バリアフリー設備については設置されています。

耐震対策の状況については、平成21年度に耐震対策を実施しました。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
市民プラザ	昭和50	1,088	○	○	○	○	○	○	改修済

② 劣化状況

市民プラザは昭和 50 年度に建設され、老朽化率は 50%を超えています。施設の老朽化が進行していると言えます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
市民プラザ	1,088	昭和50	65

③ 利用状況

1 日平均利用者数は 71.4 人、面積当たりの 1 日平均利用者数は 0.066 人となっています。

施設名称	利用者数(人)				1日平均利用者数 (人)	面積当たりの 1日平均利用者数 (人)
	H23	H24	H25	平均		
市民プラザ	24,385	23,914	28,610	25,636	71.4	0.066

④ コスト状況

市の負担額は年間 780 万円程度で、利用者 1 人当たりのコストは 306 円となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
市民プラザ	4,281,663	4,918,928	9,200,591	1,366,633	7,833,958

施設名称	利用者1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
市民プラザ	306	7,200



### (3) 図書館

#### ① 施設概要

市民の教養、調査研究、レクリエーション等に供するため、岩倉市立図書館を設置しています。

バリアフリー設備については設置されています。

耐震対策の状況については、新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
岩倉市立図書館	昭和57	2,521	○	○	○	○	—	○	不要

#### ② 劣化状況

岩倉市立図書館は昭和 57 年度に建設され、老朽化率は 50%を超えています。施設の老朽化が進行していると言えます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
岩倉市立図書館	2,521	昭和57	53

#### ③ 利用状況

1日平均利用者数は 445 人、面積当たりの 1日平均利用者数は 0.177 人となっています。

施設名称	利用者数(人)				1日平均 利用者数 (人)	面積当たりの 1日平均利用者数 (人)
	H23	H24	H25	平均		
岩倉市立図書館	136,103	134,351	136,758	135,737	445.0	0.177

④ コスト状況

市の負担額は年間6,300万円程度で、利用者1人当たりのコストは468円となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持 コスト	施設運営 コスト	合計		
岩倉市立図書館	894,635	64,621,411	65,516,046	2,010,328	63,505,718

施設名称	利用者1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
岩倉市立図書館	468	25,191

## (4) その他社会教育系施設

### ① 施設概要

青少年がグループ活動を通じて、豊かな心を育むことを目的として青少年宿泊研修施設希望の家を設置しています。

また、市民の生涯学習の拠点として教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として生涯学習センターを設置しています。どちらの施設も指定管理者制度により運営を行っています。

バリアフリー設備については、希望の家には設置されていない設備があります。

耐震対策の状況については、どちらの施設も新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
生涯学習センター	平成21	2,022	○	○	○	○	○	○	不要
青少年宿泊研修施設希望の家	昭和61	978	○	○	○	×	—	×	不要

### ② 劣化状況

青少年宿泊研修施設希望の家は昭和 61 年度に建設され、老朽化率は 47%で老朽化が始まっています。生涯学習センターは平成 21 年度に建設され比較的新しい施設といえます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
生涯学習センター	2,022	平成21	8
青少年宿泊研修施設希望の家	978	昭和61	47

### ③ 利用状況

青少年宿泊研修施設希望の1日平均利用者数は68.4人、面積当たりの1日平均利用者数は0.07人となっています。生涯学習センターの1日平均利用者数は330.3人、面積当たりの1日平均利用者数は0.163人となっています。

施設名称	利用者数(人)				1日平均利用者数(人)	面積当たりの1日平均利用者数(人)
	H23	H24	H25	平均		
生涯学習センター	114,553	119,717	121,491	118,587	330.3	0.163
青少年宿泊研修施設希望の家	21,884	22,095	21,087	21,689	68.4	0.070

### ④ コスト状況

青少年宿泊研修施設希望の市の負担額は年間990万円程度で、利用者1人当たりのコストは456円となっています。生涯学習センターの市の負担額は年間3,900万円程度で、利用者1人当たりのコストは329円となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
生涯学習センター	185,497	38,850,430	39,035,927	0	39,035,927
青少年宿泊研修施設希望の家	1,185,038	10,283,476	11,468,514	1,581,612	9,886,902

施設名称	利用者1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
生涯学習センター	329	19,306
青少年宿泊研修施設希望の家	456	10,109

## (5) スポーツ施設

### ① 施設概要

スポーツの振興、市民の体力及び健康の増進を図るため、スポーツ施設を4施設設置しています。総合体育文化センターについては、指定管理者制度により運営を行っています。

バリアフリー設備については、総合体育文化センター及び野寄テニスコートでは、一部の設備を除き設置されていますが、石仏スポーツ広場及び市立体育館では未設置となっています。

耐震対策の状況については、市立体育館で平成17年度に耐震対策を実施しました。その他の施設は新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
石仏スポーツ広場	昭和63	103	×	×	×	—	○	—	不要
市立体育館	昭和39	1,062	—	×	×	×	×	×	改修済
総合体育文化センター	平成1	7,967	○	○	—	○	—	×	不要
野寄テニスコート	平成7	81	—	○	○	×	○	○	不要

### ② 劣化状況

スポーツ施設の老朽化率を見ると、市立体育館の老朽化率が83%と高くなっています。昭和39年度に建設された施設であり、施設の更新時期が迫っているといえます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
石仏スポーツ広場	103	昭和63	32
市立体育館	1,062	昭和39	83
総合体育文化センター	7,967	平成1	42
野寄テニスコート	81	平成7	43

### ③ 利用状況

総合体育文化センターは1日平均で990.9人が利用しており、年間でも多くの人に利用されています。市立体育館については1日平均利用者数が7.6人と最も少なくなっています。ただし、市立体育館は岩倉北小学校の敷地内に立地しており、岩倉北小学校の体育館としても利用されています。

施設名称	利用者数(人)				1日平均利用者数(人)	面積当たりの1日平均利用者数(人)
	H23	H24	H25	平均		
石仏スポーツ広場	20,968	56,606	50,151	42,575	118.6	2.636
市立体育館	2,809	2,766	2,660	2,745	7.6	0.007
総合体育文化センター	335,397	385,031	346,811	355,746	990.9	0.131
野寄テニスコート	20,576	33,419	27,122	27,039	193.9	2.394

※野寄テニスコート及び石仏スポーツ広場については、管理棟などの建物の面積のみを記載しています。

### ④ コスト状況

利用者1人当たりのコストを見ると、市立体育館のコストは2,107円となっており、他の施設に比べコストがかかっています。一般の利用者が他の施設と比べて少ないため、1人当たりのコストがかかっていると考えられます。

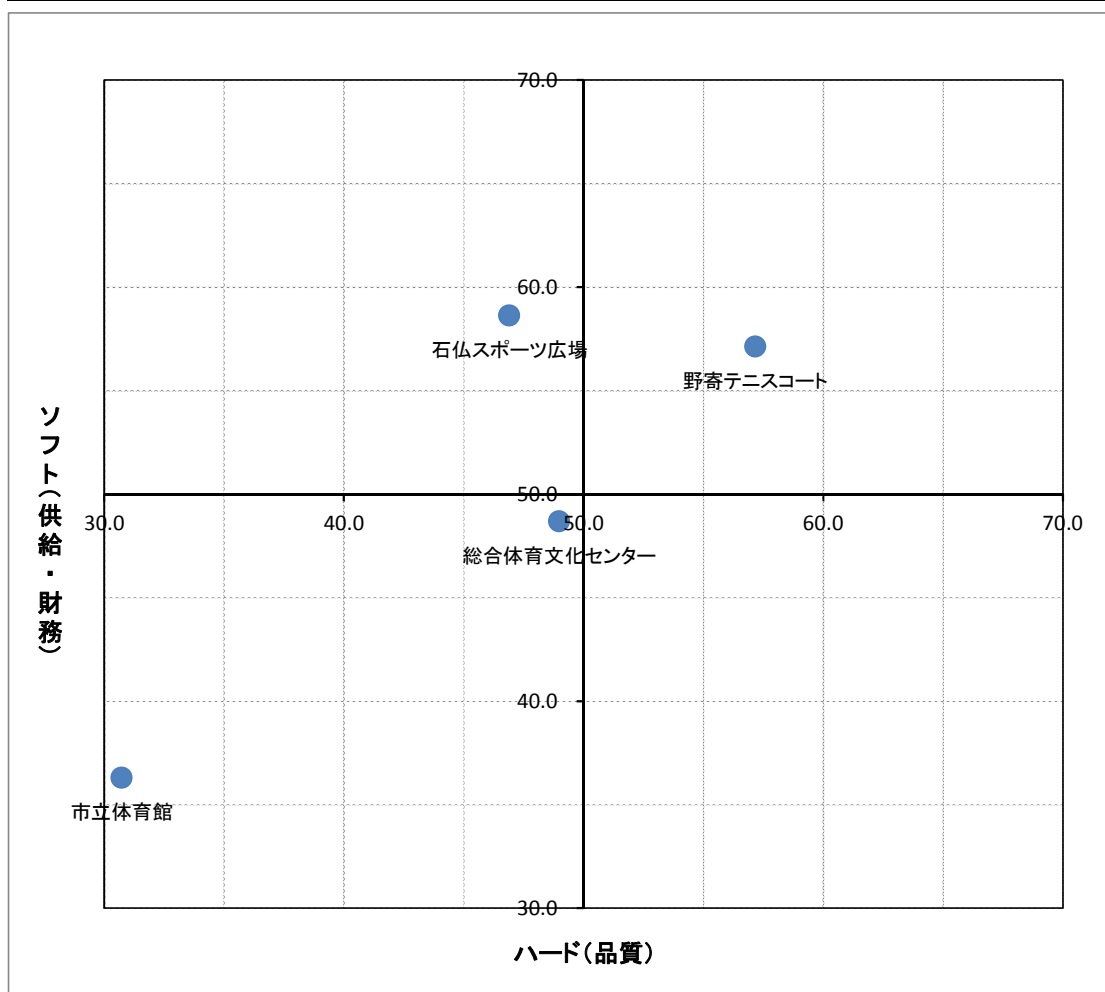
施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
石仏スポーツ広場	3,692,758	4,186,676	7,879,434	0	7,879,434
市立体育館	2,331,767	3,451,841	5,783,608	0	5,783,608
総合体育文化センター	29,280,806	49,467,091	78,747,897	29,216,167	49,531,730
野寄テニスコート	5,163,056	4,139,631	9,302,687	2,046,617	7,256,070

施設名称	利用者1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
石仏スポーツ広場	185	76,499
市立体育館	2,107	5,446
総合体育文化センター	139	6,217
野寄テニスコート	268	89,581

⑤ ポートフォリオ分析

市立体育館は品質（ハード）供給（ソフト）ともに偏差値が50を大きく下回っています。岩倉北小学校の体育館として利用はされていますが一般の利用は少ないため、ソフト（供給）の偏差値が低くなっています。また、施設の老朽化が進行しているため、施設の在り方も含め対策を検討する必要があるといえます。

施設名称	ハード(品質)						ソフト(供給・財務)						
	経過年数	劣化調査結果	耐震性能	バリアフリーの状況	合計	偏差値	ソフト(供給)			ソフト(財務)			偏差値
							面積当たりの1日平均利用者数(人)	偏差値	偏差値×0.5	利用者1人当たりのコスト(円)	偏差値	偏差値×0.5	
市立体育館	0.75	0.75	1.00	0.00	2.50	30.7	0.007	39.5	19.8	2,107	33.1	16.5	36.3
石仏スポーツ広場	2.75	0.99	1.00	0.33	5.07	46.9	2,636	61.0	30.5	185	56.3	28.1	58.6
総合体育文化センター	2.90	0.75	1.00	0.75	5.40	49.0	0.131	40.5	20.3	139	56.8	28.4	48.7
野寄テニスコート	3.40	1.50	1.00	0.80	6.70	57.2	2,394	59.0	29.5	268	55.3	27.6	57.1



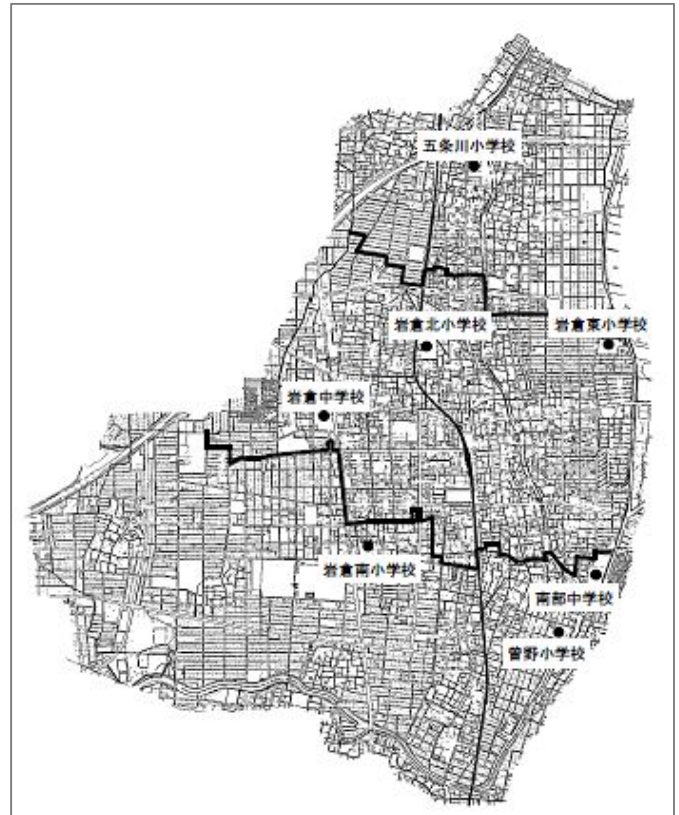
## (6) 学校

### ① 施設概要

小学校5校、中学校2校の合計7校の学校が設置されています。

バリアフリー設備については、車いす用スロープと手すりが一部の学校で設置されていますが、その他の設備については未設置となっています。

耐震対策の状況については、平成20年度から順次耐震対策を実施し、倉庫やクラブハウス等小規模な建物を除き、平成23年度にすべての学校の耐震対策が完了しました。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
五条川小学校	昭和50	4,568	×	×	○	×	○	×	改修済
岩倉東小学校	昭和40	6,004	×	×	○	×	○	×	改修済
岩倉北小学校	昭和42	5,686	×	×	×	×	×	×	改修済
岩倉南小学校	昭和40	6,742	×	×	○	×	○	×	改修済
曾野小学校	昭和56	6,209	×	×	×	×	×	×	改修済
岩倉中学校	昭和48	9,277	×	×	○	×	×	×	改修済
南部中学校	昭和51	8,418	×	×	○	×	○	×	改修済



## ② 劣化状況

学校施設の老朽化率をみると、すべての施設で老朽化率が 50%を超えており、老朽化が進行しているといえます。特に岩倉南小学校と岩倉東小学校については老朽化率が 80%を超えており、施設の更新を検討する施設といえます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
五条川小学校	4,568	昭和50	65
岩倉東小学校	6,004	昭和40	82
岩倉北小学校	5,686	昭和42	78
岩倉南小学校	6,742	昭和40	82
曾野小学校	6,209	昭和56	55
岩倉中学校	9,277	昭和48	68
南部中学校	8,418	昭和51	63

## ③ 児童生徒数の状況

岩倉東小学校は1人当たりの校舎面積が大きくなっています。他の小学校と比較して校舎の面積はそれほど変わりませんが、児童数が他の小学校より少ないためです。施設のスペースに余裕があると考えられます。

施設名称	児童生徒数(人)				児童1人当たりの校舎面積(㎡)
	H23	H24	H25	平均	
五条川小学校	428	402	388	406	10.8
岩倉東小学校	188	194	182	188	31.9
岩倉北小学校	847	820	804	824	6.9
岩倉南小学校	474	455	465	465	14.5
曾野小学校	677	631	632	647	9.6
岩倉中学校	786	808	840	811	11.4
南部中学校	440	435	436	437	19.4

#### ④ コスト状況

岩倉東小学校と五条川小学校を比較すると、同程度のコストとなっているにもかかわらず、児童1人当たりのコストでは岩倉東小学校のほうが高くなっています。施設の規模に比べて児童数が少ないため、1人当たりのコストが高くなっていると考えられます。

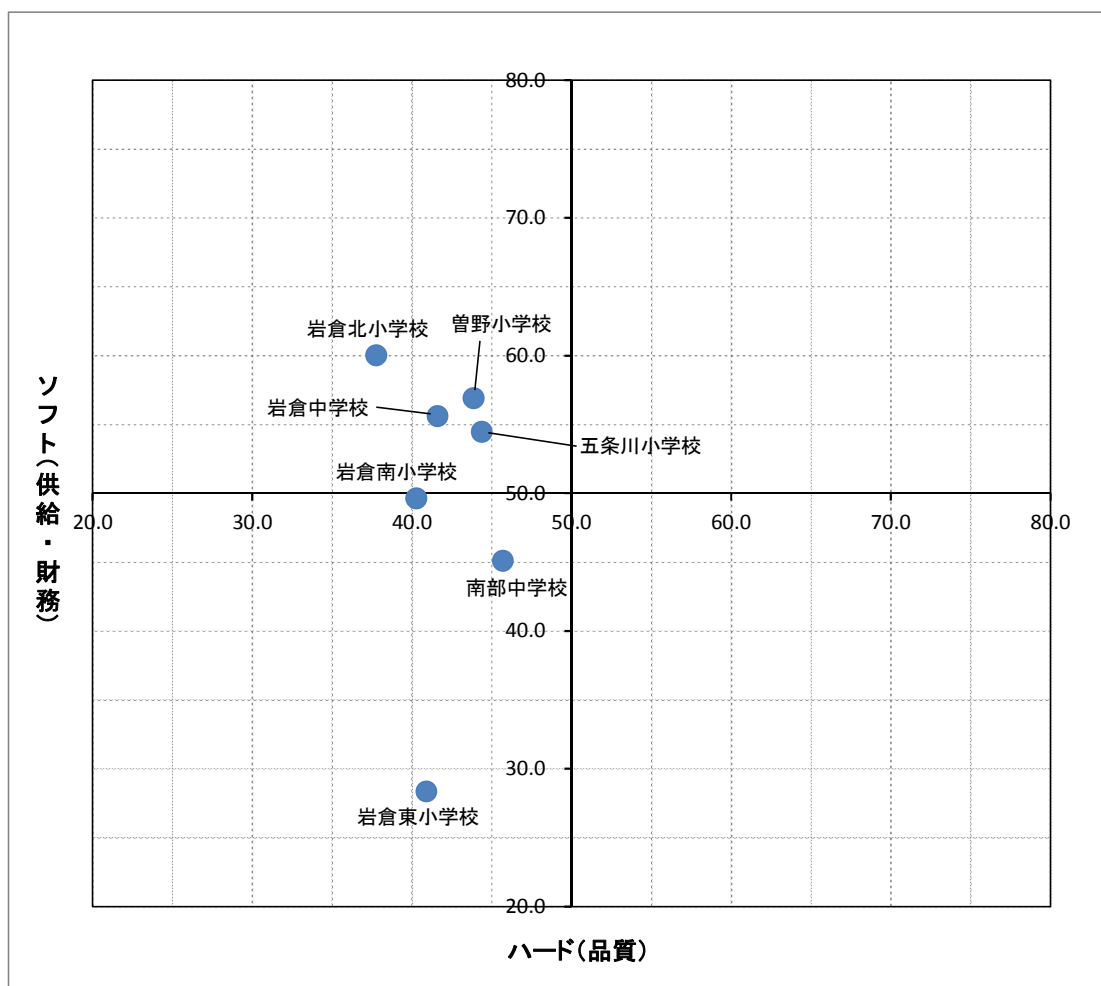
施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
五条川小学校	7,097,463	8,401,355	15,498,818	0	15,498,818
岩倉東小学校	7,264,342	8,104,005	15,368,347	0	15,368,347
岩倉北小学校	10,700,883	10,272,382	20,973,265	0	20,973,265
岩倉南小学校	11,012,626	10,927,772	21,940,398	0	21,940,398
曾野小学校	7,313,049	11,952,330	19,265,379	0	19,265,379
岩倉中学校	9,830,128	12,620,725	22,450,853	0	22,450,853
南部中学校	8,332,627	12,731,467	21,064,094	0	21,064,094

施設名称	児童生徒1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
五条川小学校	38,174	3,393
岩倉東小学校	81,747	2,560
岩倉北小学校	25,453	3,689
岩倉南小学校	47,184	3,254
曾野小学校	29,776	3,103
岩倉中学校	27,683	2,420
南部中学校	48,202	2,502

### ⑤ ポートフォリオ分析

ハード（品質）については全ての施設で偏差値が 50 以下となっており、全体的に施設の老朽化が進んでいます。また、ソフト（供給・財務）については岩倉東小学校の偏差値が低くなっています。児童 1 人当たりの校舎面積が大きいため、偏差値が低くなっていると考えられます。

施設名称	ハード(品質)						ソフト(供給・財務)							
	経過年数	劣化調査結果	耐震性能	バリアフリーの状況	合計	偏差値	ソフト(供給)			ソフト(財務)			偏差値	
							児童1人当たりの校舎面積(m <sup>2</sup> )	偏差値×0.7	偏差値×0.7	児童1人当たりのコスト(円)	偏差値	偏差値×0.3		
岩倉北小学校	1.05	1.59	0.98	0.00	3.62	37.8	6.900	60.2	42.2	25,453	59.5	17.8	60.0	
岩倉南小学校	1.35	1.35	0.99	0.33	4.02	40.3	14,499	50.6	35.4	47,184	47.5	14.2	49.6	
岩倉東小学校	1.55	1.32	0.92	0.33	4.12	40.9	31,936	28.3	19.8	81,747	28.3	8.5	28.3	
五条川小学校	1.80	1.56	0.98	0.33	4.67	44.4	10,774	55.3	38.7	38,174	52.5	15.7	54.4	
曾野小学校	2.20	1.41	0.98	0.00	4.59	43.9	9,597	56.8	39.8	29,776	57.1	17.1	56.9	
岩倉中学校	1.65	1.44	0.97	0.17	4.23	41.6	11,439	54.4	38.1	27,683	58.3	17.5	55.6	
南部中学校	2.05	1.53	0.97	0.33	4.88	45.7	19,387	44.3	31.0	48,202	46.9	14.1	45.1	



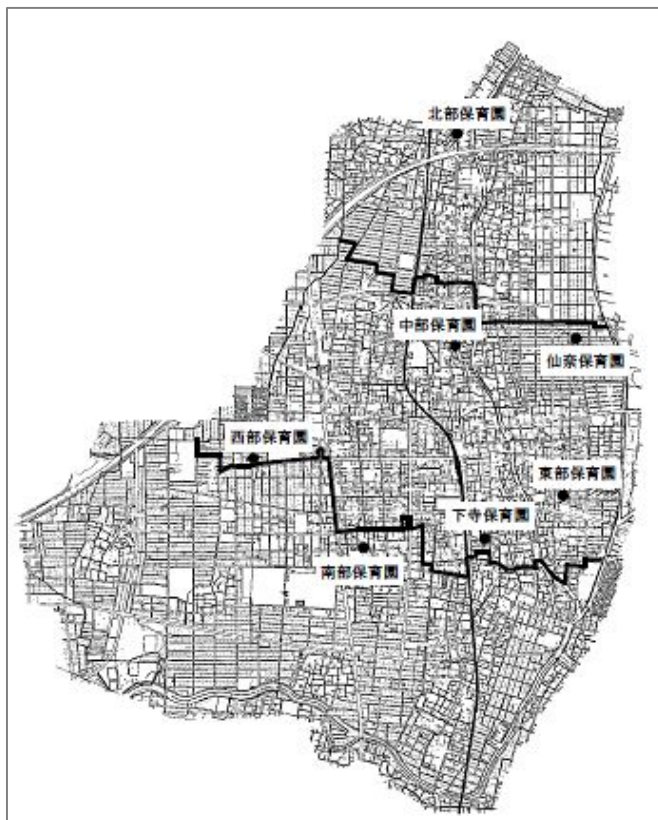
## (7) 保育園

### ① 施設概要

児童の福祉を増進するため、本市では保育園を7施設設置しています。

バリアフリー設備については、南部保育園で車いす用スロープと誘導ブロックを設置している以外は未設置となっています。

耐震対策の状況については、対策が必要な施設については平成19年度より耐震対策を実施し、平成25年度に耐震対策が完了しました。なお、仙奈保育園は耐震診断の結果耐震基準を満たしていると判定され、南部保育園については新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
北部保育園	昭和41	739	—	×	×	×	×	×	改修済
東部保育園	昭和43	1,135	—	×	×	×	×	×	改修済
西部保育園	昭和44	534	—	×	×	×	×	×	改修済
中部保育園	昭和45	1,037	×	×	×	×	×	×	改修済
仙奈保育園	昭和49	652	—	×	×	×	×	×	不要
下寺保育園	昭和52	686	×	×	×	×	×	×	改修済
南部保育園	平成9	838	×	×	○	×	—	○	不要

## ② 劣化状況

保育園の老朽化率をみると、南部保育園以外の施設で老朽化率が 50%を超えており、老朽化が進行しています。特に北部保育園については、木造建築での耐用年数が短い（30 年で設定）にもかかわらず耐用年数を超えて 50 年程度施設を運用しており、老朽化率が高くなっています。施設の更新について検討する必要があると考えられます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
北部保育園	739	昭和41	160
東部保育園	1,135	昭和43	75
西部保育園	534	昭和44	75
中部保育園	1,037	昭和45	73
仙奈保育園	652	昭和49	67
下寺保育園	686	昭和52	62
南部保育園	838	平成9	28

## ③ 園児数の状況

北部保育園は1人当たりの園舎面積が大きくなっています。園舎の面積は大きくありませんが、園児数が少ないため施設のスペースに余裕があるといえます。

施設名称	園児数(人)				園児1人当たりの園舎面積(㎡)
	H23	H24	H25	平均	
北部保育園	54	59	60	58	12.7
東部保育園	110	89	98	99	11.5
西部保育園	60	54	56	57	9.2
中部保育園	111	107	91	103	10.1
仙奈保育園	81	89	82	84	7.8
下寺保育園	110	110	91	104	6.6
南部保育園	99	105	94	99	8.5

#### ④ コスト状況

面積1㎡当たりのコストを見ると、仙奈保育園および下寺保育園のコストが高くなっています。

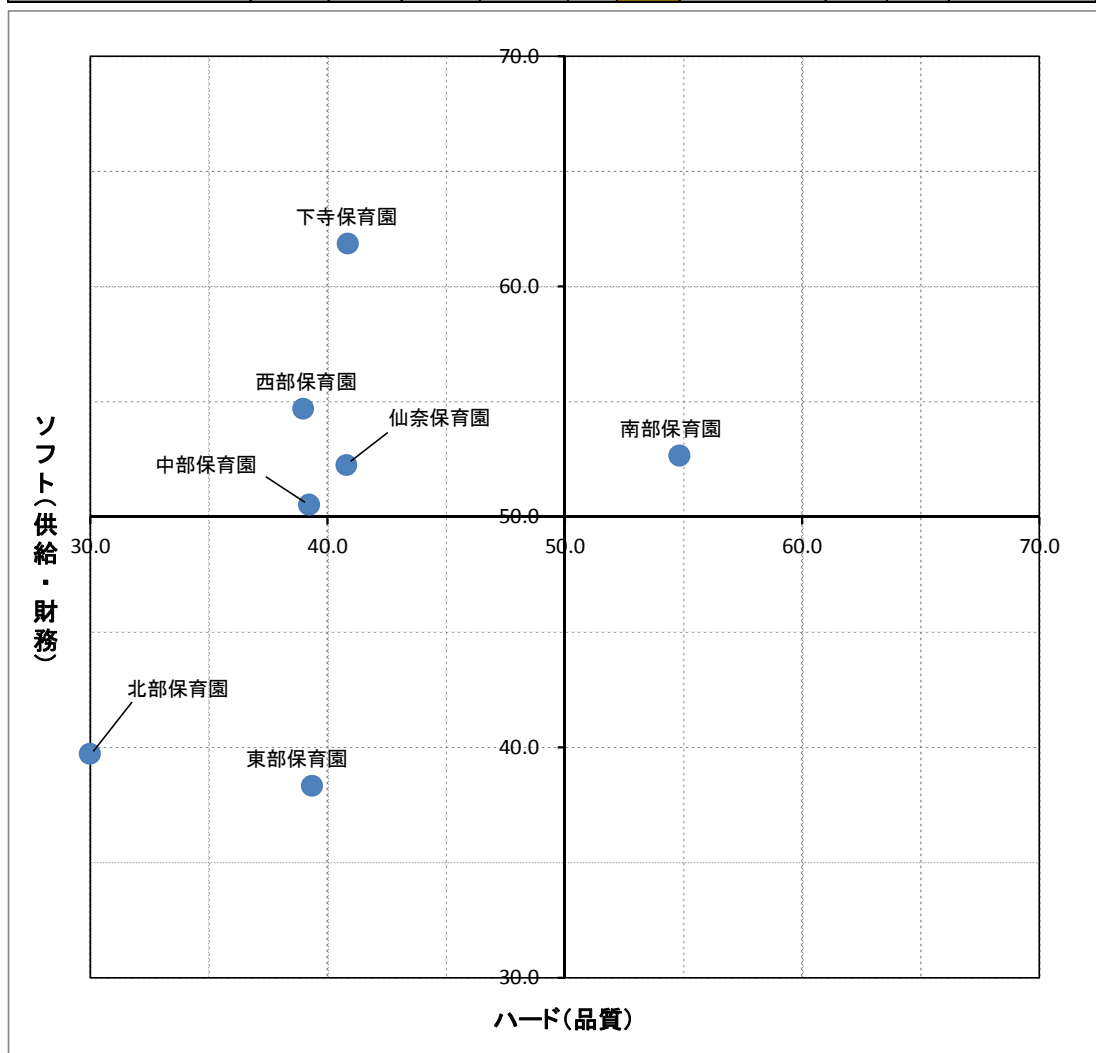
施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
北部保育園	15,331,683	54,395,511	69,727,194	20,672,793	49,054,401
東部保育園	37,457,551	112,812,818	150,270,369	31,842,796	118,427,573
西部保育園	14,227,456	45,012,811	59,240,267	19,973,972	39,266,295
中部保育園	24,831,209	84,121,504	108,952,713	30,304,312	78,648,401
仙奈保育園	28,785,306	86,159,366	114,944,672	18,245,883	96,698,789
下寺保育園	29,239,169	80,311,447	109,550,616	23,868,171	85,682,445
南部保育園	31,315,962	88,808,174	120,124,136	23,449,703	96,674,433

施設名称	園児1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
北部保育園	845,766	66,379
東部保育園	1,196,238	104,341
西部保育園	688,882	73,532
中部保育園	763,577	75,842
仙奈保育園	1,151,176	148,311
下寺保育園	823,870	124,902
南部保育園	976,509	115,363

⑤ ポートフォリオ分析

ハード（品質）について南部保育園以外の施設で偏差値が 50 以下となっており、全体的に施設の老朽化が進んでいます。ソフト（供給・財務）では東部保育園および北部保育園の偏差値が低くなっています。施設の面積に対して園児数が少なく、園児 1 人当たりの面積が大きいため、偏差値が低くなっていると考えられます。一方、下寺保育園は園児 1 人当たりの面積が小さく、施設がよく利用されているため偏差値が高くなっています。

施設名称	ハード(品質)						ソフト(供給・財務)						
	経過年数	劣化調査結果	耐震性能	バリアフリーの状況	合計	偏差値	ソフト(供給)			ソフト(財務)			偏差値
							園児1人当たりの校舎面積(m <sup>2</sup> )	偏差値	偏差値×0.7	園児1人当たりのコスト(円)	偏差値	偏差値×0.3	
中部保育園	1.35	1.50	1.00	0.00	3.85	39.2	10.068	47.0	32.9	763,577	58.8	17.6	50.5
西部保育園	1.25	1.56	1.00	0.00	3.81	39.0	9,246	51.2	35.8	688,882	62.9	18.9	54.7
南部保育園	3.50	1.50	1.00	0.33	6.33	54.8	8,465	55.1	38.6	976,509	46.9	14.1	52.7
仙奈保育園	1.60	1.50	1.00	0.00	4.10	40.8	7,762	58.7	41.1	1,151,176	37.2	11.2	52.3
北部保育園	-0.30	1.68	1.00	0.00	2.38	30.0	12,724	33.5	23.5	845,766	54.2	16.3	39.8
東部保育園	1.40	1.47	1.00	0.00	3.87	39.4	11,465	39.9	27.9	1,196,238	34.7	10.4	38.3
下寺保育園	1.85	1.26	1.00	0.00	4.11	40.9	6,596	64.6	45.2	823,870	55.4	16.6	61.8



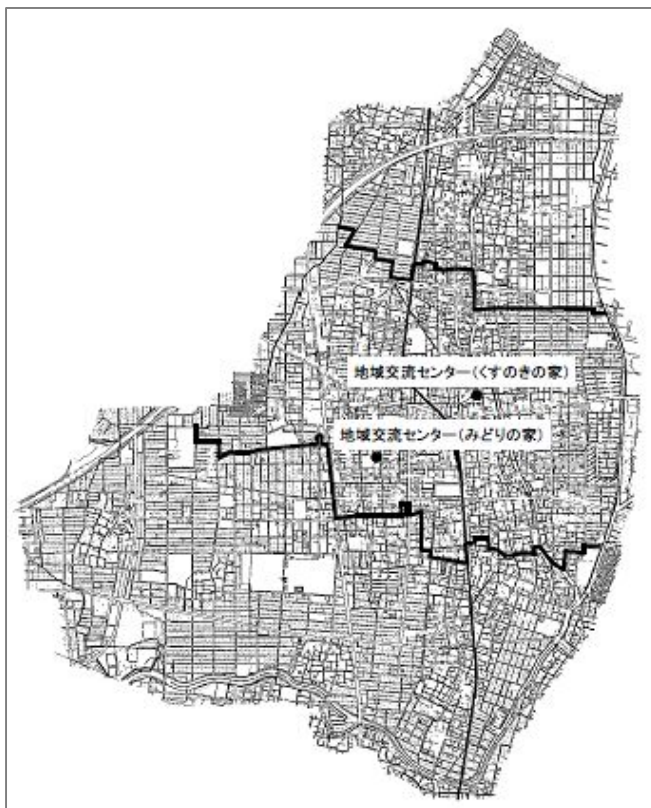
## (8) 地域交流センター

### ① 施設概要

市民の交流及び自主的活動を促進し、市民生活の向上に寄与するとともに、児童及び高齢者の福祉の増進並びに文化の振興を図るため、地域交流センターを2施設設置しています。みどりの家については指定管理者制度により運営を行っています。

バリアフリー設備については、どちらの施設も設置されています。

耐震対策の状況については、どちらの施設も新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
地域交流センター(みどりの家)	平成7	717	—	○	○	○	○	○	不要
地域交流センター(くすのきの家)	平成13	908	○	○	—	○	—	○	不要

### ② 劣化状況

老朽化率をみると20～30%程度となっています。それぞれ平成7年度、13年度と比較的新しく建設された施設であり、それほど老朽化も進んでいないと考えられます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
地域交流センター(みどりの家)	717	平成7	32
地域交流センター(くすのきの家)	908	平成13	22



### ③ 利用状況

1日平均利用者数はどちらの施設も160人程度で大きな差はありませんが、面積当たりの1日平均利用者数はくすのきの家のほうが少なくなっています。くすのきの家はみどりの家に比べ床面積が大きいため、施設スペースに余裕があるといえます。

施設名称	利用者数(人)				1日平均利用者数(人)	面積当たりの1日平均利用者数(人)
	H23	H24	H25	平均		
地域交流センター(みどりの家)	50,439	51,920	51,623	51,327	166.7	0.233
地域交流センター(くすのきの家)	49,432	48,250	49,994	49,225	159.8	0.176

### ④ コスト状況

利用者1人当たりのコストを見ると、みどりの家のコストが低くなっています。みどりの家は指定管理者制度を導入しており、施設の維持及び運営にかかるコストが低く抑えられているためと考えられます。

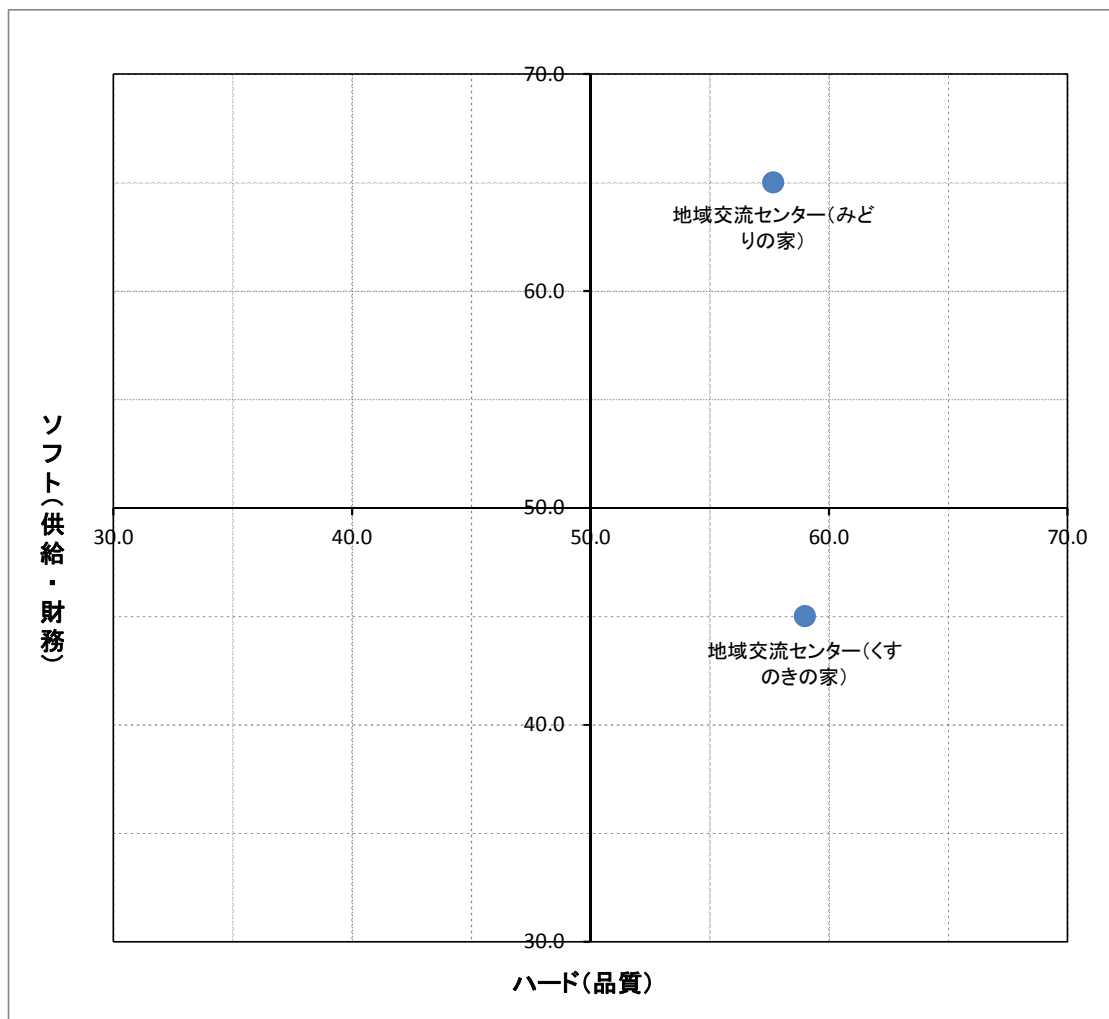
施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
地域交流センター(みどりの家)	8,831	10,392,103	10,400,934	1,169,952	9,230,982
地域交流センター(くすのきの家)	9,401,268	6,984,323	16,385,591	1,573,170	14,812,421

施設名称	利用者1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
地域交流センター(みどりの家)	180	12,874
地域交流センター(くすのきの家)	301	16,313

⑤ ポートフォリオ分析

ハード（品質）についてはどちらの施設も偏差値が 60 程度で、市の施設の中では老朽化が進んでいません。また、みどりの家はくすのきの家と比べソフト（供給・財務）の偏差値が高くなりました。コストが低く抑えられ効率的な運営ができていると考えられます。

施設名称	ハード(品質)						ソフト(供給・財務)						
	経過年数	劣化調査結果	耐震性能	バリアフリーの状況	合計	偏差値	ソフト(供給)			ソフト(財務)			偏差値
							面積当たりの1日平均利用者数(人)	偏差値	偏差値×0.5	利用者1人当たりのコスト(円)	偏差値	偏差値×0.5	
地域交流センター(くすのきの家)	3.85	1.14	1.00	1.00	6.99	59.0	0.176	50.0	25.0	301	40.0	20.0	45.0
地域交流センター(みどりの家)	3.40	1.38	1.00	1.00	6.78	57.7	0.233	70.0	35.0	180	60.0	30.0	65.0



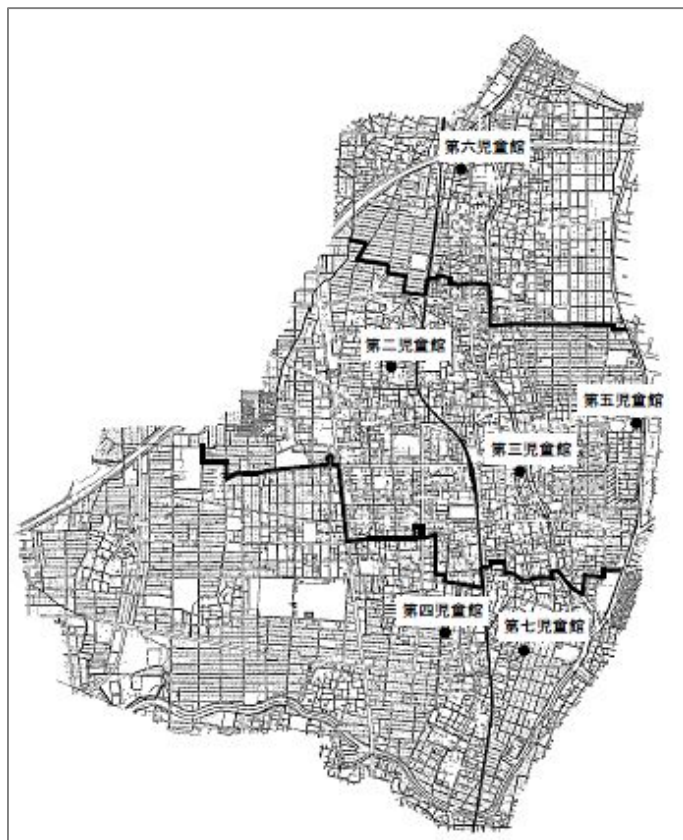
## (9) 児童館

### ① 施設概要

地域の児童に健全な遊びを提供し、児童の健康を増進し情操を豊かにするとともに、児童の福祉を目的とする地域組織活動の育成を図るために、6施設の児童館を設置しています。

バリアフリー設備については、第四児童館は設置されていますが、第二児童館と第六児童館では設置されておらず、その他の児童館も一部の設備が未設置となっています。

耐震対策の状況については、平成25年度に第二児童館の耐震対策を実施しました。第六児童館、第七児童館は耐震診断の結果、耐震基準を満たしていると判定されました。その他の施設は新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
第六児童館	昭和48	210	×	×	×	×	×	×	不要
第二児童館	昭和43	187	—	×	×	×	×	×	改修済
第五児童館	平成8	561	—	○	○	×	×	○	不要
第三児童館	平成15	674	○	○	—	×	—	×	不要
第七児童館	昭和49	210	×	×	○	×	○	×	不要
第四児童館	平成9	380	—	○	—	○	—	○	不要

## ② 劣化状況

老朽化率をみると第二児童館、第六児童館、第七児童館の老朽化率が 50%を超えています。この3施設は昭和 40 年代に建設された施設であり、老朽化が進行しています。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
第六児童館	210	昭和48	68
第二児童館	187	昭和43	77
第五児童館	561	平成8	30
第三児童館	674	平成15	18
第七児童館	210	昭和49	67
第四児童館	380	平成9	28

## ③ 利用状況

1日平均利用者数が第六児童館で少なくなっていますが、面積当たりの1日平均利用者数では他の施設とあまり大きな違いはありません。第二児童館の面積当たりの1日平均利用者数が多くなっていますが、利用者数に対して施設の面積が小さく、スペースに余裕のない中で運営していることが考えられます。

施設名称	利用者数(人)				1日平均 利用者数 (人)	面積当たりの 1日平均利用者数 (人)
	H23	H24	H25	平均		
第六児童館	13,647	14,029	12,605	13,427	37.4	0.178
第二児童館	23,500	23,500	23,464	23,488	79.9	0.427
第五児童館	27,022	25,272	26,642	26,312	73.3	0.131
第三児童館	25,599	26,455	25,486	25,847	87.9	0.130
第七児童館	19,590	19,934	20,234	19,919	55.5	0.264
第四児童館	23,108	23,108	25,456	23,891	81.3	0.214

#### ④ コスト状況

利用者1人当たりのコスト、面積1㎡当たりのコストともに第二児童館、第六児童館、第七児童館のコストが高くなっています。

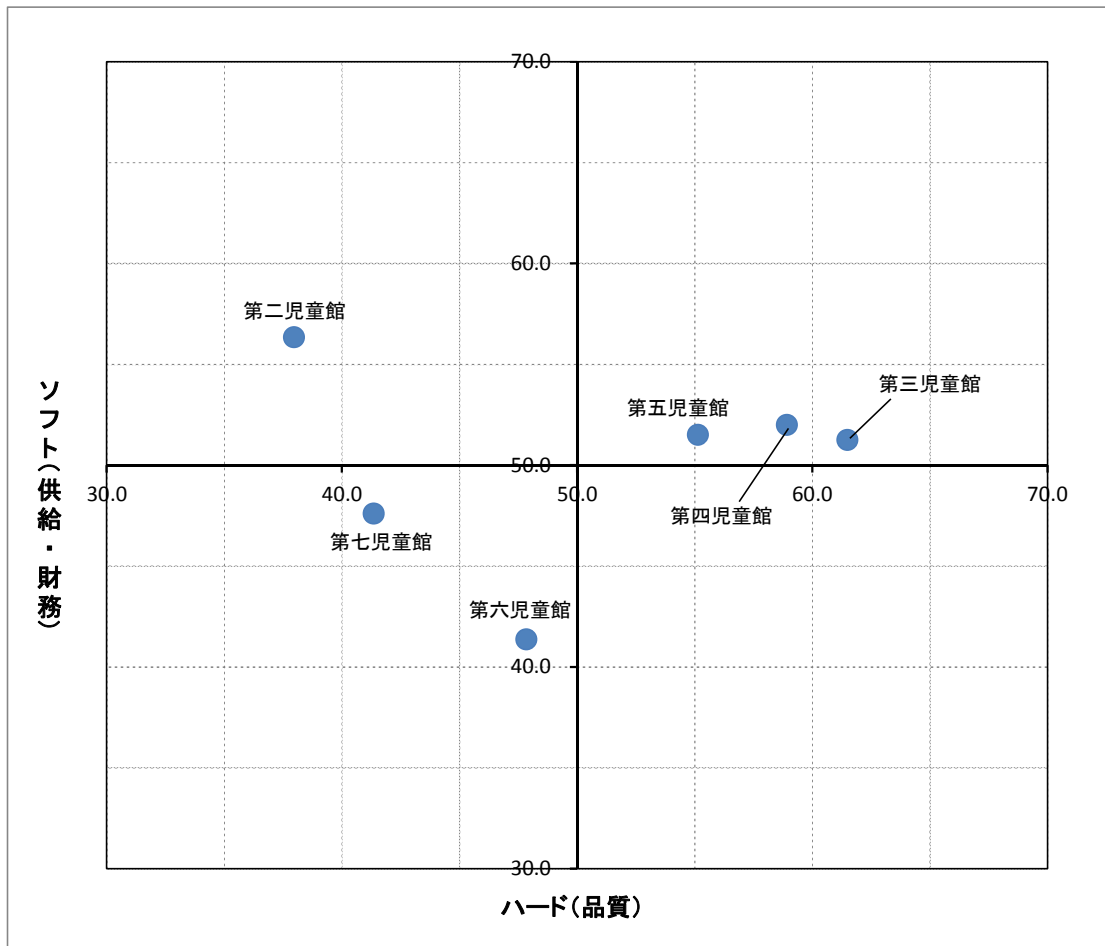
施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
第六児童館	8,916,122	4,002,868	12,918,990	2,513,800	10,405,190
第二児童館	7,491,143	10,778,206	18,269,349	2,232,267	16,037,082
第五児童館	6,800,549	9,400,865	16,201,414	6,712,000	9,489,414
第三児童館	10,230,931	7,566,570	17,797,501	8,293,866	9,503,635
第七児童館	8,058,983	8,560,519	16,619,502	2,517,667	14,101,835
第四児童館	9,058,638	7,039,983	16,098,621	4,635,934	11,462,687

施設名称	利用者1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
第六児童館	775	49,549
第二児童館	683	85,760
第五児童館	361	16,915
第三児童館	368	14,100
第七児童館	708	67,152
第四児童館	480	30,165

⑤ ポートフォリオ分析

ハード（品質）については昭和 40 年代に建設された第二児童館、第七児童館の偏差値が低くなっています。また、第七児童館は現況調査の結果、屋根及び内装に劣化が見られたことで偏差値が低くなっています。ソフト（供給・財務）では第二児童館の偏差値が高くなっています。面積当たりの1日平均利用者数が多くっており、施設がよく利用されているといえますが、利用者に対して施設の面積が小さく、十分なスペースがないまま運営しているともいえます。

施設名称	ハード(品質)						ソフト(供給・財務)						
	経過年数	劣化調査結果	耐震性能	バリアフリーの状況	合計	偏差値	ソフト(供給)			ソフト(財務)			偏差値
							面積当たりの1日平均利用者数(人)	偏差値	偏差値×0.5	利用者1人当たりのコスト(円)	偏差値	偏差値×0.5	
第二児童館	1.15	1.50	1.00	0.00	3.65	38.0	0.427	69.9	34.9	683	42.8	21.4	56.3
第五児童館	3.40	1.38	1.00	0.60	6.38	55.2	0.131	40.9	20.4	361	62.1	31.1	51.5
第六児童館	1.60	1.62	1.00	1.00	5.22	47.9	0.178	45.5	22.7	775	37.2	18.6	41.3
第七児童館	1.60	1.26	1.00	0.33	4.19	41.4	0.264	53.9	27.0	708	41.3	20.6	47.6
第四児童館	3.60	1.38	1.00	1.00	6.98	58.9	0.214	49.0	24.5	480	55.0	27.5	52.0
第三児童館	4.00	1.89	1.00	0.50	7.39	61.5	0.130	40.8	20.4	368	61.7	30.8	51.2



## (10) 子ども発達支援施設

### ① 施設概要

障害またはその恐れのある未就学の児童及びその保護者が通園し、早期療育の充実を図るため、子ども発達支援施設あゆみの家を設置しています。

バリアフリー設備については、車いす用のスロープは設置されていますが、その他の設備は設置されていません。

耐震対策の状況については、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていると判定されました。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
子ども発達支援施設あゆみの家	昭和49	127	—	×	○	×	×	×	不要

### ② 劣化状況

子ども発達支援施設あゆみの家は昭和49年度に建設され、老朽化率は50%を超えています。施設の老朽化が進行していると言えます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
子ども発達支援施設あゆみの家	127	昭和49	67

### ③ 利用状況

園児1人当たりの園舎面積は14.1㎡となっています。

施設名称	園児数(人)				園児1人当たりの園舎面積(㎡)
	H23	H24	H25	平均	
子ども発達支援施設あゆみの家	11	7	8	9	14.1

④ コスト状況

市の負担額は年間 1,570 万円程度となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持 コスト	施設運営 コスト	合計		
子ども発達支援施設あゆみの家	3,812,840	11,905,374	15,718,214	0	15,718,214

施設名称	園児1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
子ども発達支援施設あゆみの家	1,746,468	123,765



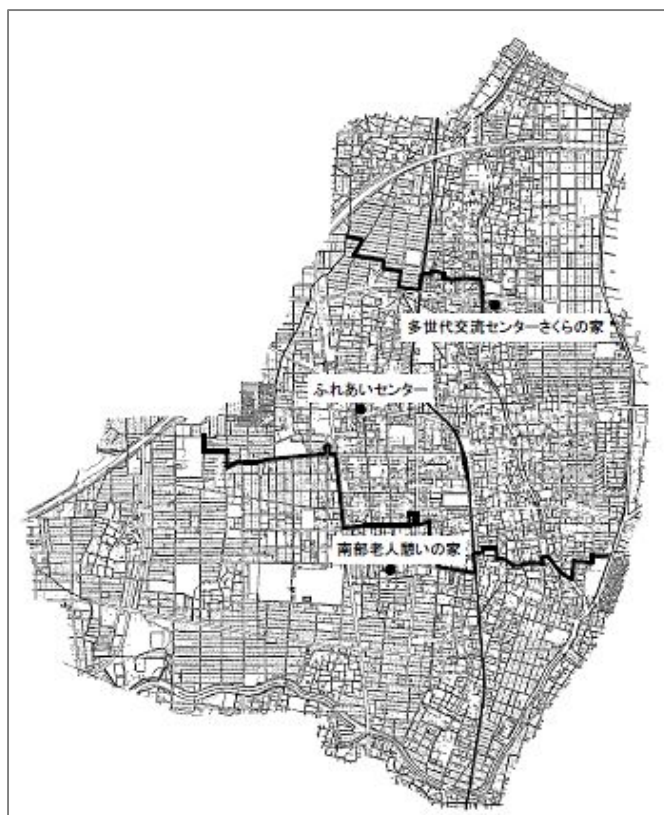
## (11) 高齢福祉施設

### ① 施設概要

高齢者の生きがいと健康づくりの推進を図るための施設として、南部老人憩の家と多世代交流センターさくらの家を設置しています。また、高齢者の生きがい活動の増進、地域福祉のための人材養成並びにボランティアの育成及び強化、地域福祉活動の推進のための施設として、ふれあいセンターを設置しています。ふれあいセンターについては指定管理者制度により運営を行っています。

バリアフリー設備については、南部老人憩の家で一部の設備が設置されていませんが、その他の施設については設置されています。

耐震対策の状況については、南部老人憩の家は耐震診断の結果、耐震基準を満たしていると判定されました。その他の施設は新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
多世代交流センターさくらの家	平成22	1,061	○	○	○	○	○	○	不要
ふれあいセンター	平成4	1,593	○	○	○	○	○	○	不要
南部老人憩の家	昭和51	389	—	×	○	×	○	×	不要

### ② 劣化状況

南部老人憩の家は昭和 51 年度に建設され、老朽化率が 50%を超えており老朽化が進行しています。それに対して、さくらの家は平成 22 年度建設で比較的新しい施設であるため、老朽化率も 7%と低くなっています。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
多世代交流センターさくらの家	1,061	平成22	7
ふれあいセンター	1,593	平成4	37
南部老人憩の家	389	昭和51	63

### ③ 利用状況

1日平均利用者数を見ると、さくらの家は南部老人憩いの家に比べ多く利用されていることがわかります。しかし面積当たりの1日平均利用者数を見ると、南部老人憩いの家の人数が多くなり、稼働率が高くなっています。

施設名称	利用者数(人)				1日平均利用者数(人)	面積当たりの1日平均利用者数(人)
	H23	H24	H25	平均		
多世代交流センターさくらの家	40,055	54,264	59,940	51,420	174.9	0.165
ふれあいセンター	—	—	—	—	—	—
南部老人憩いの家	22,484	24,582	24,608	23,891	81.3	0.209

※ふれあいセンターについては社会福祉協議会・シルバー人材センター等の事務局としての利用が主たるものであるため、1日平均利用者数及び面積当たりの1日平均利用者数を算出していません。

### ④ コスト状況

市の負担額としては南部老人憩いの家と比べ、さくらの家は多くのコストが発生していますが、施設の規模が大きいためとも考えられます。しかし、利用者1人当たりのコストについてはさくらの家のコストが低くなっています。利用者数が多いため1人当たりのコストが低くなっていると考えられます。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
多世代交流センターさくらの家	5,501,324	11,673,965	17,175,289	2,812,151	14,363,138
ふれあいセンター	874,971	6,065,040	6,940,011	97,578	6,842,433
南部老人憩いの家	783,711	7,976,073	8,759,784	0	8,759,784

施設名称	利用者1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
多世代交流センターさくらの家	279	13,537
ふれあいセンター	—	4,295
南部老人憩いの家	367	22,519

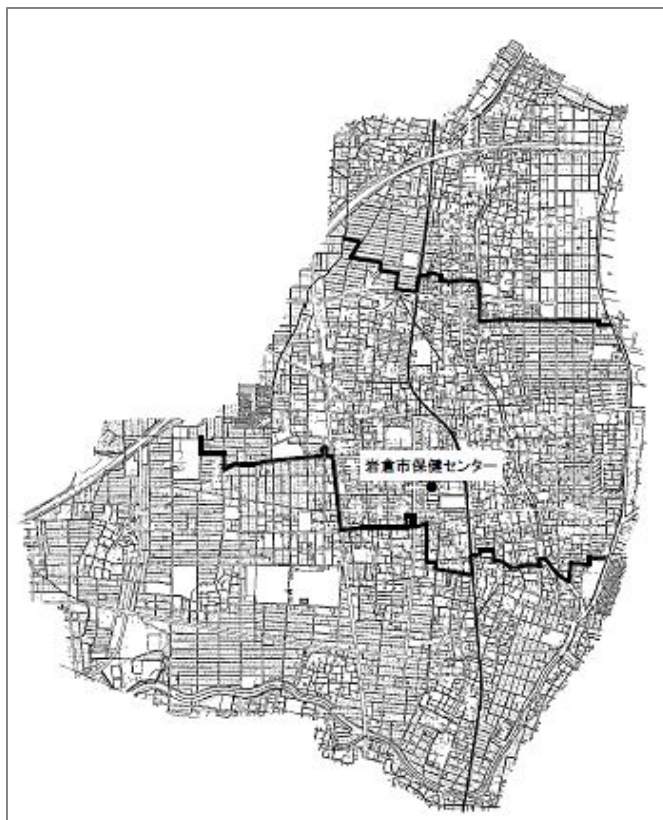
## (12) 保健施設

### ① 施設概要

市民の健康保持及び増進を図るために保健センターを設置しています。

バリアフリー設備については設置されています。

耐震対策の状況については、新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
保健センター	昭和61	1,274	○	○	○	○	○	○	不要

### ② 劣化状況

保健センターは昭和 61 年度に建設され、老朽化率は 47%となっています。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
保健センター	1,274	昭和61	47

③ コスト状況

市の負担額は年間3億2千万円程度で、市民1人当たりのコストは6,818円、面積1㎡当たりのコストは26万円程度となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
保健センター	18,600,675	338,018,878	356,619,553	31,683,587	324,935,966

施設名称	市民1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
保健センター	6,818	256,259

※事務所としての使用が主である施設のため、利用者1人当たりのコストを算出していません。

## (13) 診療所

### ① 施設概要

休日における急病患者に適正な医療を提供し、市民の生命と健康保持に寄与するために休日急病診療所を設置しています。

バリアフリー設備については、一部の設備が未設置となっています。

耐震対策の状況については、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていると判定されました。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
休日急病診療所	昭和49	248	×	×	○	○	○	○	不要

### ② 劣化状況

休日急病診療所は昭和49年度に建設され、老朽化率は67%となっています。施設の老朽化が進行していると言えます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
休日急病診療所	248	昭和49	67

### ③ 利用状況

1日平均利用者数は17.9人、面積当たりの1日平均利用者数は0.072人となっています。

施設名称	利用者数(人)				1日平均利用者数 (人)	面積当たりの1日平均利用者数 (人)
	H23	H24	H25	平均		
休日急病診療所	1,185	1,367	1,199	1,250	17.9	0.072

④ コスト状況

市の負担額は年間463万円程度で、利用者1人当たりのコストは3,705円となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持 コスト	施設運営 コスト	合計		
休日急病診療所	453,826	14,516,681	14,970,507	10,337,590	4,632,917

施設名称	利用者1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
休日急病診療所	3,705	18,681

## (14) 公営住宅

### ① 施設概要

住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で住宅を賃借し、市民生活の安定と社会福祉の増進を図るため、市営大山寺住宅を設置しています。

バリアフリー設備については、階段等への手すりの設置を除き、設置されていません。

耐震対策の状況については、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていると判定されました。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
市営大山寺住宅	昭和49	2,519	×	—	×	×	○	—	不要

### ② 劣化状況

大山寺住宅は昭和49年度に建設され、老朽化率は67%となっています。施設の老朽化が進行していると言えます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
市営大山寺住宅	2,519	昭和49	67

### ③ 入居状況

入居状況については、現在管理している48戸すべてに入居をしています。

施設名称	入居戸数(戸)			
	H23	H24	H25	平均
市営大山寺住宅	48	48	48	48

④ コスト状況

市の負担額は年間 510 万円程度となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持 コスト	施設運営 コスト	合計		
市営大山寺住宅	10,428,750	159,874	10,588,624	5,491,400	5,097,224

施設名称	1世帯当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
市営大山寺住宅	106,192	2,024



## (15) 庁舎等

### ① 施設概要

市の主たる事務所として庁舎を設置しています。また、公用車保管場所として公用車駐車を設置しています。

バリアフリー設備については、設置されています。

耐震対策の状況については、どちらの施設も新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
公用車駐車場	平成8	95	—	—	—	—	—	—	不要
市役所	平成13	10,360	○	○	—	○	—	○	不要

### ② 劣化状況

老朽化率をみると 20～30%程度となっています。それぞれ平成8年度、13年度と比較的新しく建設された施設であり、それほど老朽化も進んでいないと考えられます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
公用車駐車場	95	平成8	30
市役所	10,360	平成13	22

### ③ コスト状況

市役所の市の負担額は年間1億1,600万円程度で、市民1人当たりのコストは2,437円、面積1㎡当たりのコストは11,202円となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
公用車駐車場	3,442	0	3,442	0	3,442
市役所	64,984,401	53,303,516	118,287,917	2,136,487	116,151,430

施設名称	市民1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
公用車駐車場	0	36
市役所	2,437	11,212

※主として行政事務を行う施設であるため、利用者1人当たりのコストを算出していません。

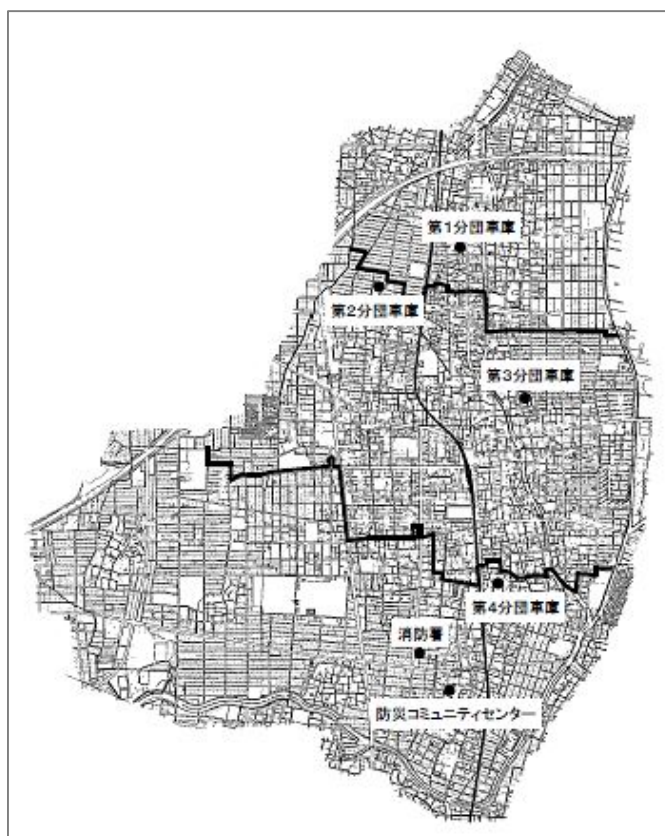
## (16) 消防施設

### ① 施設概要

火災などの災害から市民の生命・財産を守るため消防署1施設と消防団車庫4施設を設置しています。また、災害時における避難施設及び防災活動拠点とするとともに、平常時には地域住民の防災意識の高揚及び自主防災活動の推進に寄与するため、防災コミュニティセンターを設置しています。

バリアフリー設備については、防災コミュニティセンターに自動ドアが未設置となっています。

耐震対策の状況については、いずれの施設も新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
第1分団車庫	平成4	43	—	—	—	—	—	—	不要
第3分団車庫	平成15	67	—	—	—	—	—	—	不要
第2分団車庫	平成26	76	—	—	—	—	—	—	不要
消防署	平成8	1,963	○	○	○	○	—	○	不要
第4分団車庫	平成17	55	—	—	—	—	—	—	不要
防災コミュニティセンター	平成17	447	○	○	○	×	—	○	不要

## ② 劣化状況

老朽化率をみると、第1分団車庫で37%となっており、老朽化が始まっているといえます。それ以外の施設の老朽化率は30%以下で比較的新しい施設といえます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
第1分団車庫	43	平成4	37
第3分団車庫	67	平成15	18
第2分団車庫	76	平成26	0
消防署	1,963	平成8	30
第4分団車庫	55	平成17	15
防災コミュニティセンター	447	平成17	15

## ③ 利用状況

防災コミュニティセンターの1日平均利用者数は11.5人、面積当たりの1日平均利用者数は0.026人となっています。

施設名称	利用者数(人)				1日平均 利用者数 (人)	面積当たりの 1日平均利用者数 (人)
	H23	H24	H25	平均		
第1分団車庫						
第3分団車庫						
第2分団車庫						
消防署						
第4分団車庫						
防災コミュニティセンター	4,199	4,817	3,356	4,124	11.5	0.026

※消防署及び消防団車庫については一般の利用を想定していないため、1日平均利用者数及び面積当たりの1日平均利用者数を算出していません。

④ コスト状況

消防署の市の負担額は年間3億7,300万円程度で、市民1人当たりのコストは7,840円、面積1㎡当たりのコストは190,332円となっています。また、防災コミュニティセンターの利用者1人当たりのコストは1,566円となっています。消防団車庫についてはコストはほぼ発生していません。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
第1分団車庫	1,123	0	1,123	0	1,123
第3分団車庫	1,982	0	1,982	0	1,982
第2分団車庫	0	0	0	0	0
消防署	462,265	373,159,438	373,621,703	0	373,621,703
第4分団車庫	2,060	0	2,060	0	2,060
防災コミュニティセンター	3,949	6,903,682	6,907,631	451,183	6,456,448

施設名称	利用者1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
防災コミュニティセンター	1,566	14,444

施設名称	市民1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
第1分団車庫	0	26
第3分団車庫	0	30
第2分団車庫	0	0
消防署	7,840	190,332
第4分団車庫	0	37

※消防署及び消防団車庫については一般の利用を想定していないため、利用者1人当たりのコストを算出していません。

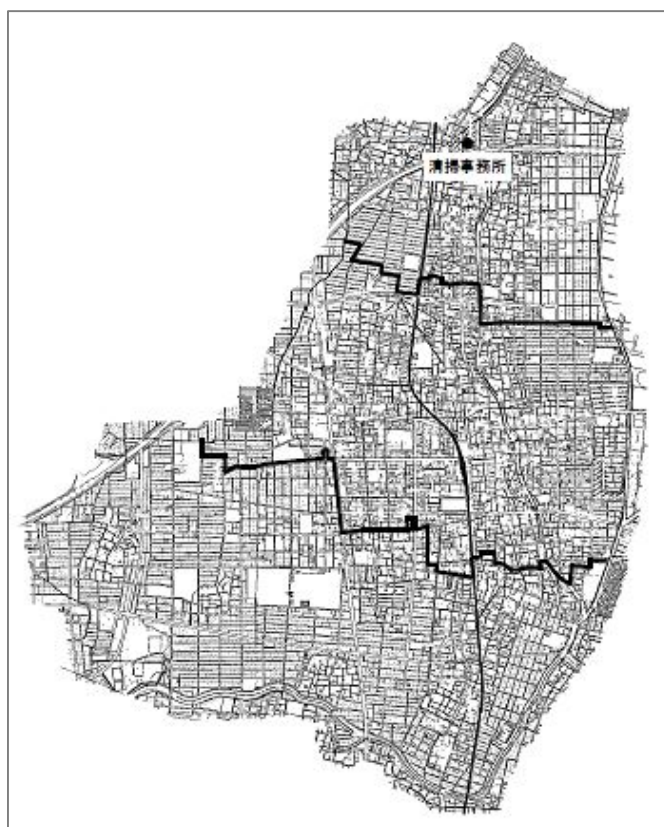
## (17) その他行政系施設

### ① 施設概要

市内の汚物処理、その他清掃に関する事務を行うため清掃事務所を設置しています。

バリアフリー設備については、設置されていません。

耐震対策の状況については、平成 26 年度に耐震対策を実施しました。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
清掃事務所	昭和50	518	×	×	×	×	×	×	改修済

### ② 劣化状況

清掃事務所は昭和 50 年度に建設され、老朽化率は 50%を超えています。施設の老朽化が進行していると言えます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
清掃事務所	518	昭和50	65

③ コスト状況

市の負担額は年間1億1,300万円程度で、市民1人当たりのコストは2,372円、面積1㎡当たりのコストは21万8,250円となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
清掃事務所	7,367,015	105,686,597	113,053,612	0	113,053,612

施設名称	市民1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
清掃事務所	2,372	218,250

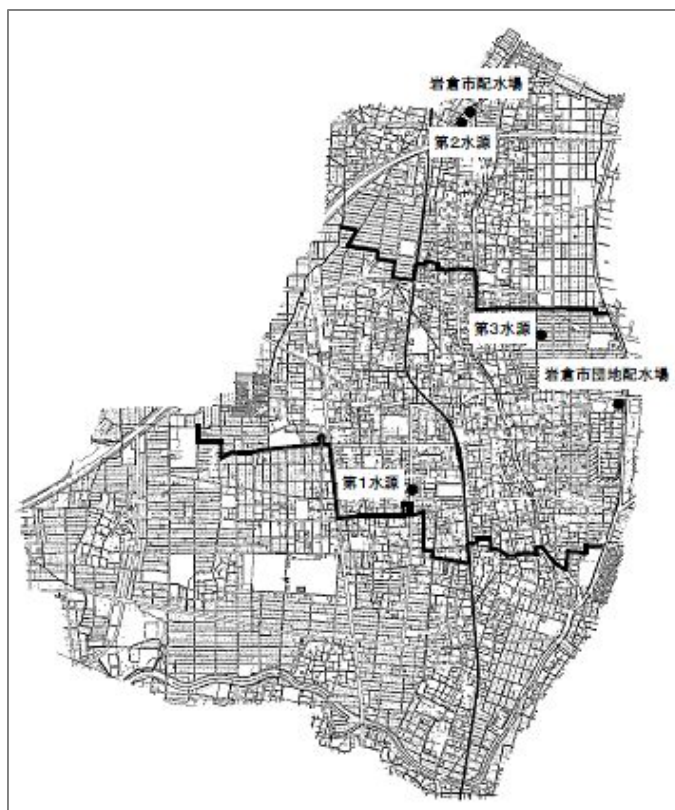
※一般の利用を想定していないため、利用者1人当たりのコストを算出していません。

## (18) 上水道施設

### ① 施設概要

上水道施設として配水場を2施設、水源施設を3施設保有しています。

耐震対策の状況については、平成18年度に岩倉市配水場、平成20年度に岩倉団地配水場の耐震対策を実施しました。第1水源、第2水源、第3水源については、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていると判定されました。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
岩倉団地配水場	昭和47	535	—	—	—	—	—	—	改修済
第2水源	昭和48	36	—	—	—	—	—	—	不要
第1水源	昭和47	34	—	—	—	—	—	—	不要
岩倉市配水場	昭和49	621	—	—	—	—	—	—	改修済
第3水源	昭和49	36	—	—	—	—	—	—	不要

### ② 劣化状況

老朽化率をみると、どの施設も老朽化率が50%を超えています。すべての施設が昭和40年代に建設されており、施設の老朽化が進行しているといえます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
岩倉団地配水場	535	昭和47	70
第2水源	36	昭和48	68
第1水源	34	昭和47	70
岩倉市配水場	621	昭和49	67
第3水源	36	昭和49	67



### ③ コスト状況

施設のコストは配水場で年間1億～1億2,000万円程度、水源施設で1,000万～1,300万円程度となっています。しかし上水道施設については水道料金により施設にかかるコストを賄っているため、市の負担額は発生していません。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
岩倉団地配水場	88,319,171	19,062,234	107,381,405	107,381,405	0
第2水源	9,367,424	1,338,045	10,705,469	10,705,469	0
第1水源	9,368,941	3,836,130	13,205,071	13,205,071	0
岩倉市配水場	101,916,936	24,427,497	126,344,433	126,344,433	0
第3水源	9,678,174	3,061,206	12,739,380	12,739,380	0

施設名称	市民1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
岩倉団地配水場	0	0
第2水源	0	0
第1水源	0	0
岩倉市配水場	0	0
第3水源	0	0

※一般の利用を想定していないため、利用者1人当たりのコストを算出していません。

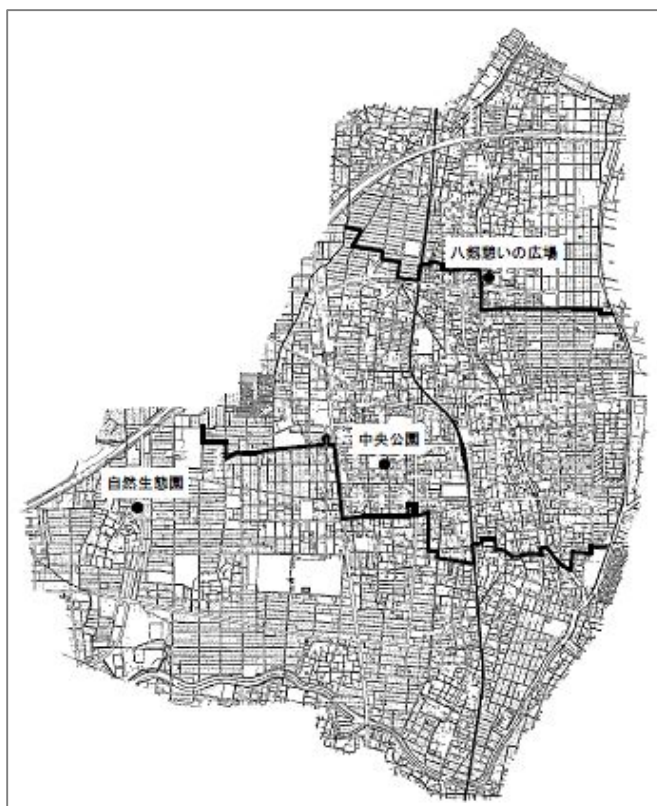
## (19) 公園・広場等

### ① 施設概要

公園・広場に附属する施設として、中央公園及び尾北自然歩道八剣憩いの広場に便所を設置しています。また、自然との共生を目指すシンボルとして自然生態園を設置し、その活動の拠点としてワークハウスを設置しています。

バリアフリー設備については、一部の設備が設置されていません。

耐震対策の状況については、いずれの施設も新耐震基準で建設されています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
八剣憩いの広場	平成12	78	—	○	○	—	○	×	不要
中央公園	平成25	36	—	○	○	—	○	—	不要
自然生態園	平成7	70	—	○	○	×	×	×	不要

### ② 劣化状況

老朽化率をみると、中央公園及び八剣憩いの広場は建設年度が比較的新しいことから施設の老朽化も進んでいないと考えられます。自然生態園については木造建築で耐用年数が短いことから老朽化が進行していると考えられます。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
八剣憩いの広場	78	平成12	23
中央公園	36	平成25	2
自然生態園	70	平成7	63

### ③ 利用状況

自然生態園の1日平均利用者数は36.7人、面積当たりの1日平均利用者数は0.524人となっています。

施設名称	利用者数(人)				1日平均利用者数(人)	面積当たりの1日平均利用者数(人)
	H23	H24	H25	平均		
八剣憩いの広場						
中央公園						
自然生態園	10,237	9,212	9,399	9,616	36.7	0.524

### ④ コスト状況

市の負担額は中央公園で年間3,000円程度、八剣憩いの広場で490万円程度、自然生態園で270万円程度となっています。また、面積1㎡当たりのコストは中央公園で80円程度、八剣憩いの広場で6万円程度、自然生態園で4万円程度となっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
八剣憩いの広場	3,912,603	1,006,546	4,919,149	0	4,919,149
中央公園	3,079	0	3,079	0	3,079
自然生態園	1,942,628	798,351	2,740,979	1,633	2,739,346

施設名称	利用者1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
自然生態園	285	39,134

施設名称	市民1人当たりのコスト(円)	面積1㎡当たりのコスト(円)
八剣憩いの広場	103	63,066
中央公園	0	86

## (20) その他の施設

### ① 施設概要

その他の施設として公衆便所、放置自転車等保管場所、排水機場等を保有しています。

バリアフリー設備については、設置されています。

耐震化の状況については、駅西公衆便所を除き耐震基準を満たしています。



施設名称	建築年度	延床面積 (㎡)	バリアフリーの状況						耐震化の状況
			エレベーター	障害者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	誘導ブロック	
駅西公衆便所	昭和54	42	—	○	○	—	—	○	未対応
大市場排水機場	昭和57	166	—	—	—	—	—	—	不要
放置自転車等保管場所	平成7	82	—	—	—	—	—	—	不要
自転車駐車場	平成21	617	—	—	—	—	—	—	不要
大山寺排水機場	昭和60	54	—	—	—	—	—	—	不要
野寄排水機場	平成1	100	—	—	—	—	—	—	不要
北島排水機場	平成4	63	—	—	—	—	—	—	不要

※駅西公衆便所については建て替え予定のため、耐震化については未調査です。

## ② 劣化状況

老朽化率をみると、自転車駐車場については施設が新しいことから老朽化率は低くなっています。

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化率(%)
駅西公衆便所	42	昭和54	58
大市場排水機場	166	昭和57	53
放置自転車等保管場所	82	平成7	32
自転車駐車場	617	平成21	8
大山寺排水機場	54	昭和60	48
野寄排水機場	100	平成1	42
北島排水機場	63	平成4	37

## ③ コスト状況

放置自転車等保管場所は市の直営で運営されており、他の施設と違い人件費がかかっているため、市の負担額が他の施設と比べ高くなっています。

施設名称	市の支出(円)			市の収入(円)	市の負担額(円)
	施設維持コスト	施設運営コスト	合計		
駅西公衆便所	—	—	0	0	0
大市場排水機場	1,077,997	685,528	1,763,525	625,333	1,138,192
放置自転車等保管場所	3,396	2,914,952	2,918,348	0	2,918,348
自転車駐車場	—	—	0	0	0
大山寺排水機場	741,485	342,117	1,083,602	438,667	644,935
野寄排水機場	356,972	416,015	772,987	303,000	469,987
北島排水機場	218,842	595,462	814,304	322,333	491,971

施設名称	市民1人当たりのコスト (円)	面積1㎡当たりのコスト (円)
駅西公衆便所	—	—
大市場排水機場	24	6,857
放置自転車等保管場所	61	35,590
自転車駐車場	—	—
大山寺排水機場	14	11,943
野寄排水機場	10	4,700
北島排水機場	10	7,809

※駅西公衆便所は他の施設と合わせた管理のため、自転車駐車場は（財）自転車駐輪センターが運営しているため、コストは算出していません。

### 第3節 施設分類ごとの課題

施設分類ごとにみた公共施設の課題として以下の点が挙げられます。

#### 〔課題1〕 学校施設

- ◆本市の学校施設は昭和40～50年代に建設された施設であるため、老朽化が進行しています。
- ◆岩倉東小学校では児童1人当たりの面積が大きくなっています。施設のスペースに余裕があるため、有効に活用することが望まれます。
- ◆今後は少子高齢化が進み児童数が減少するため、現在と同じ床面積である場合、岩倉東小学校と同様に利用されていないスペースが増加することが考えられます。

#### 〔課題2〕 保育園

- ◆南部保育園を除き施設の老朽化が進行しています。特に北部保育園は耐用年数を超えて施設を運用しているため、施設の更新について検討する必要があると考えられます。
- ◆東部保育園及び北部保育園は園児1人当たりの園舎面積が大きくなっています。施設のスペースに余裕があると考えられます。

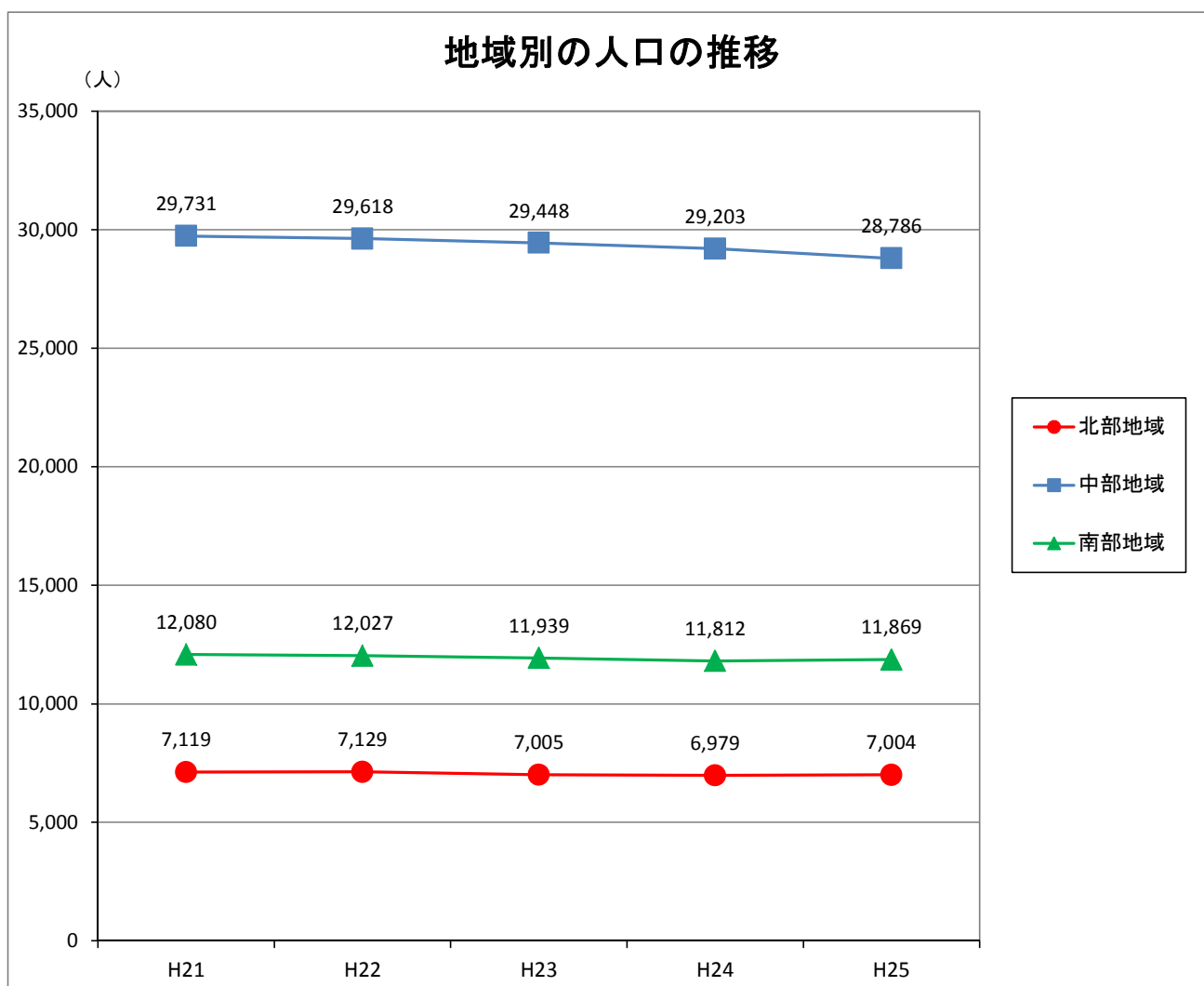
## 第4章 地域別に見た現状と課題

この章では、岩倉市都市計画マスタープランの地域区分に基づき市域を3地域に区分し、それぞれの地域ごとに人口の推移・将来予測、地域ごとの施設の現状と課題を整理します。

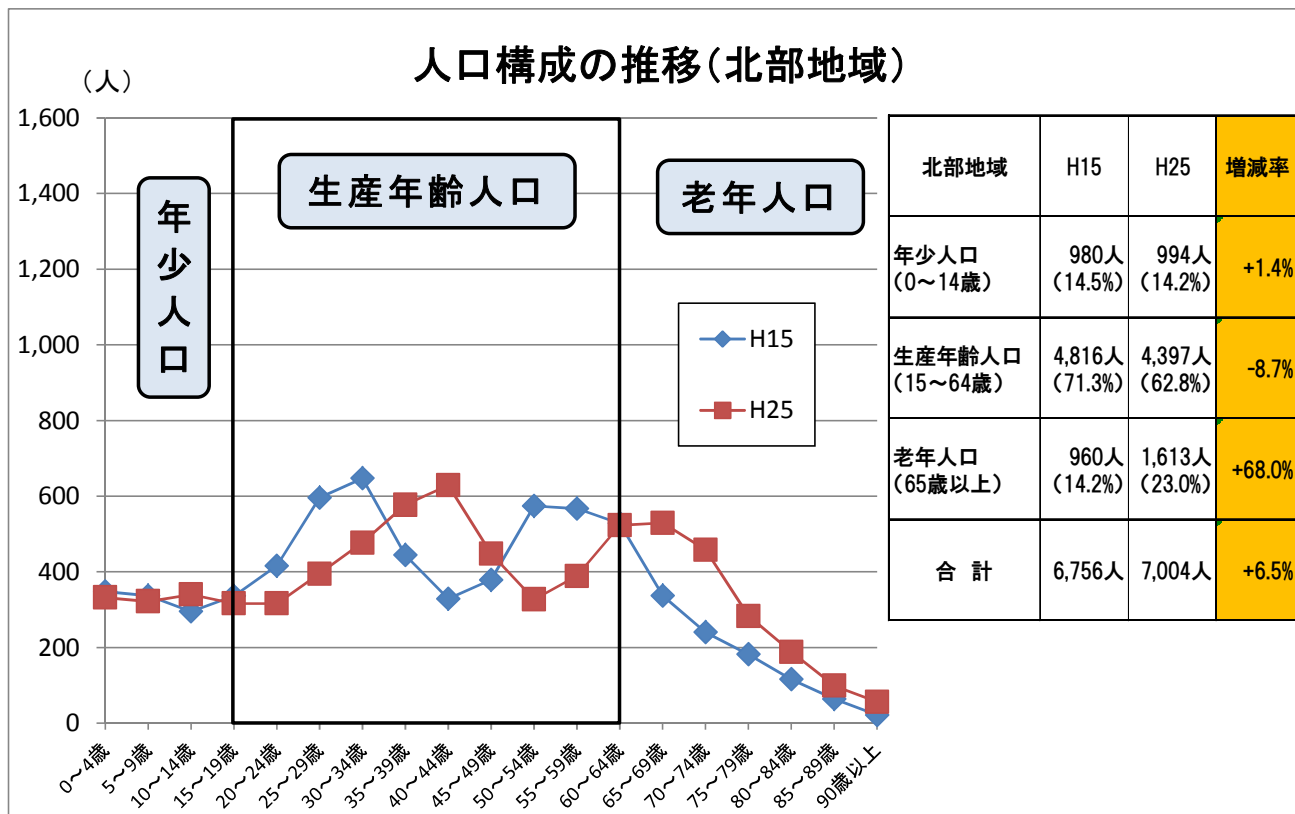
### 第1節 地域別の人口の推移・将来予測

#### (1) 人口の推移

地域別の人口の推移は、最も多い中部地域が28,700人～29,700人前後で推移し、次いで南部地域が11,800人～12,000人、北部地域が7,000人～7,100人となっています。すべての地域で人口は減少傾向にありますが、特に中部地域は平成21年度から平成25年度にかけて3.2%減少となり、他の地域が1.6%程度の減少と比べ大きく減少しています。

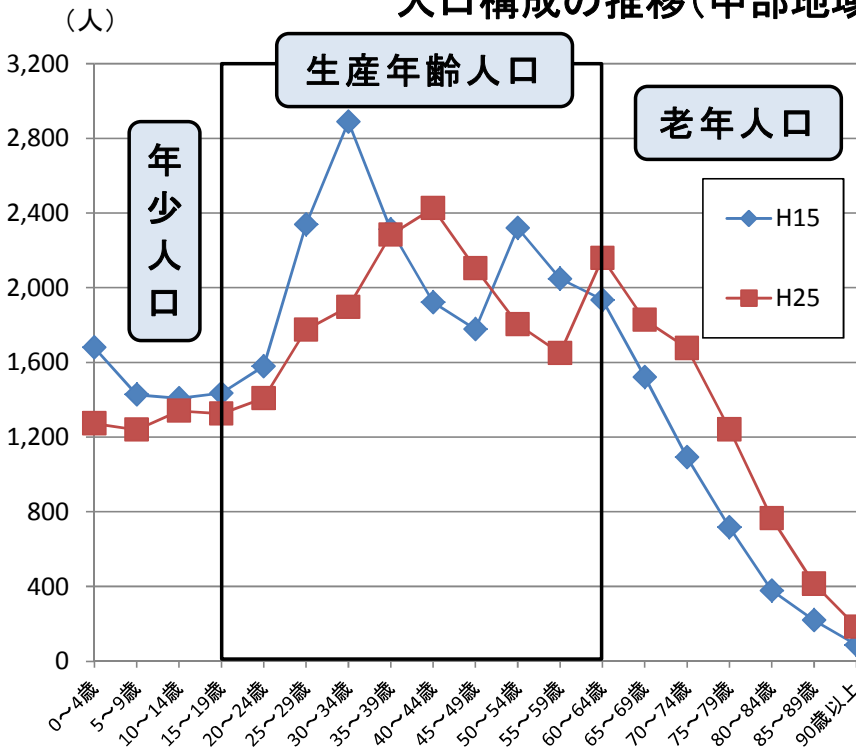


地域別の人口構成を平成15年度と平成25年度で比較すると、生産年齢人口については全ての地域で減少しています。年少人口についても北部地域は微増となっていますが、中部地域及び南部地域では大きな減少となっています。老年人口の割合は全ての地域で増加し、その増加率も非常に大きなものとなっています。これらのことから市全体として少子高齢化が進行していることがわかります。



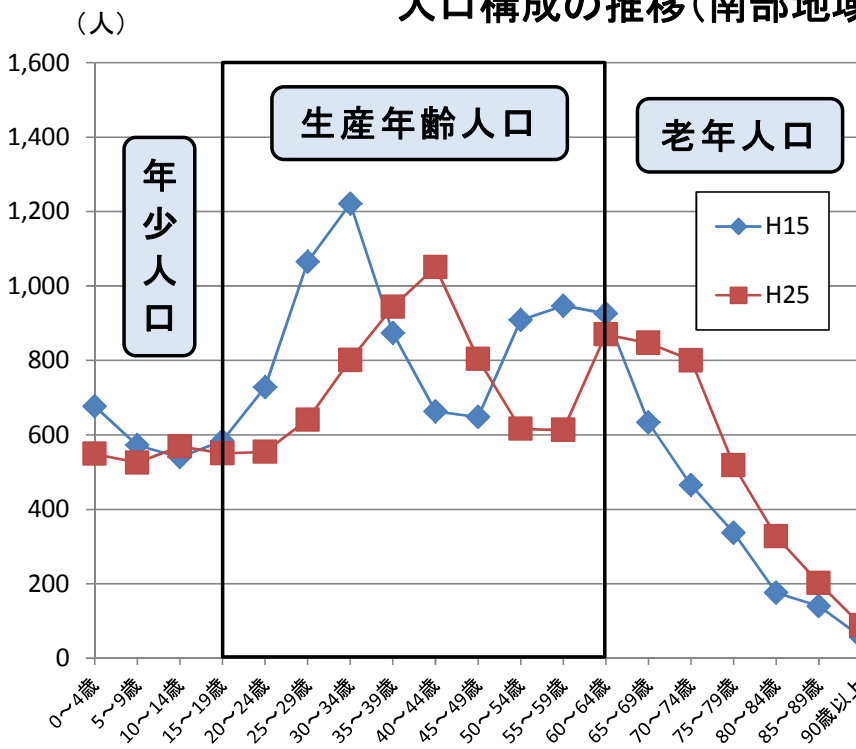


### 人口構成の推移(中部地域)



中部地域	H15	H25	増減率
年少人口 (0~14歳)	4,515人 (15.5%)	3,852人 (13.4%)	-14.7%
生産年齢人口 (15~64歳)	20,555人 (70.7%)	18,828人 (65.4%)	-8.4%
老年人口 (65歳以上)	4,015人 (13.8%)	6,106人 (21.2%)	+52.1%
合計	29,085人	28,786人	-1.0%

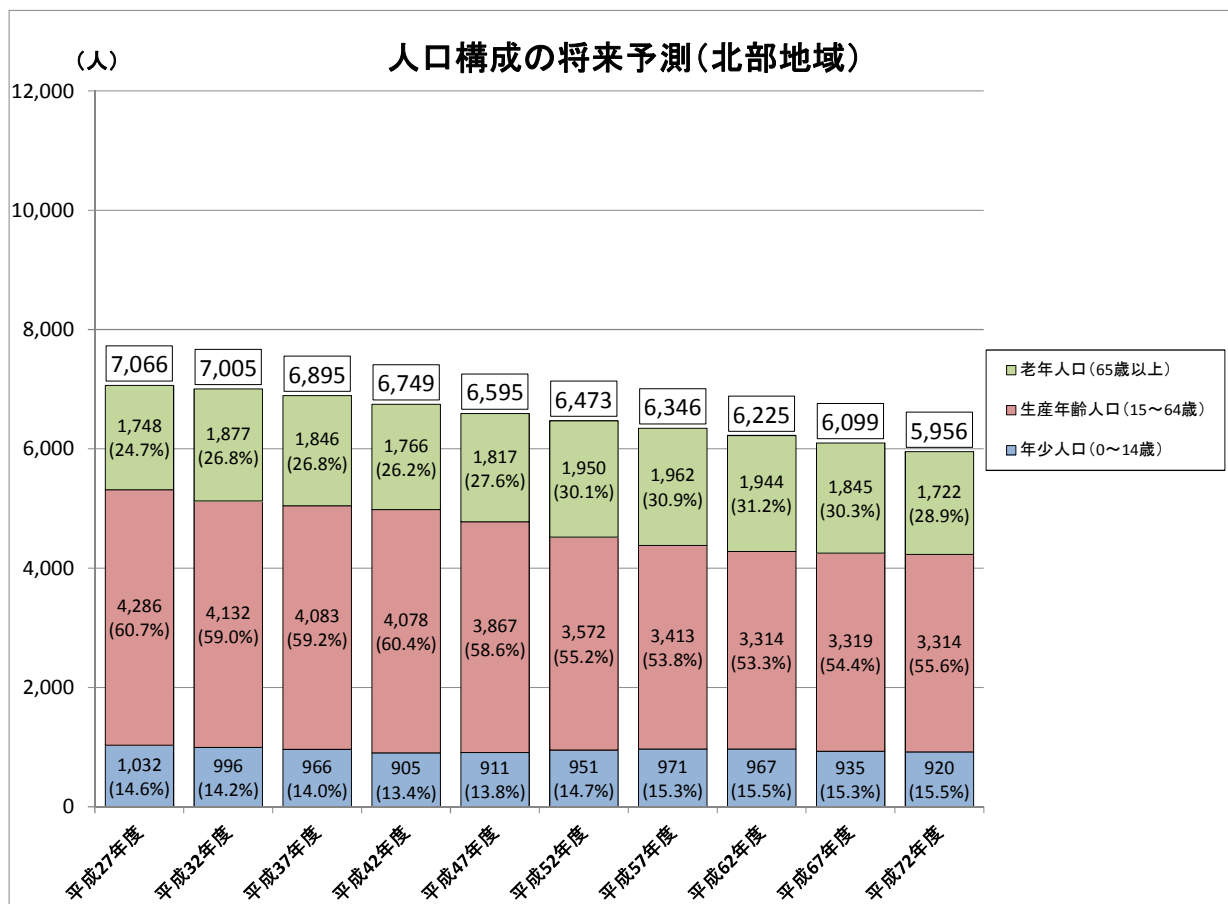
### 人口構成の推移(南部地域)

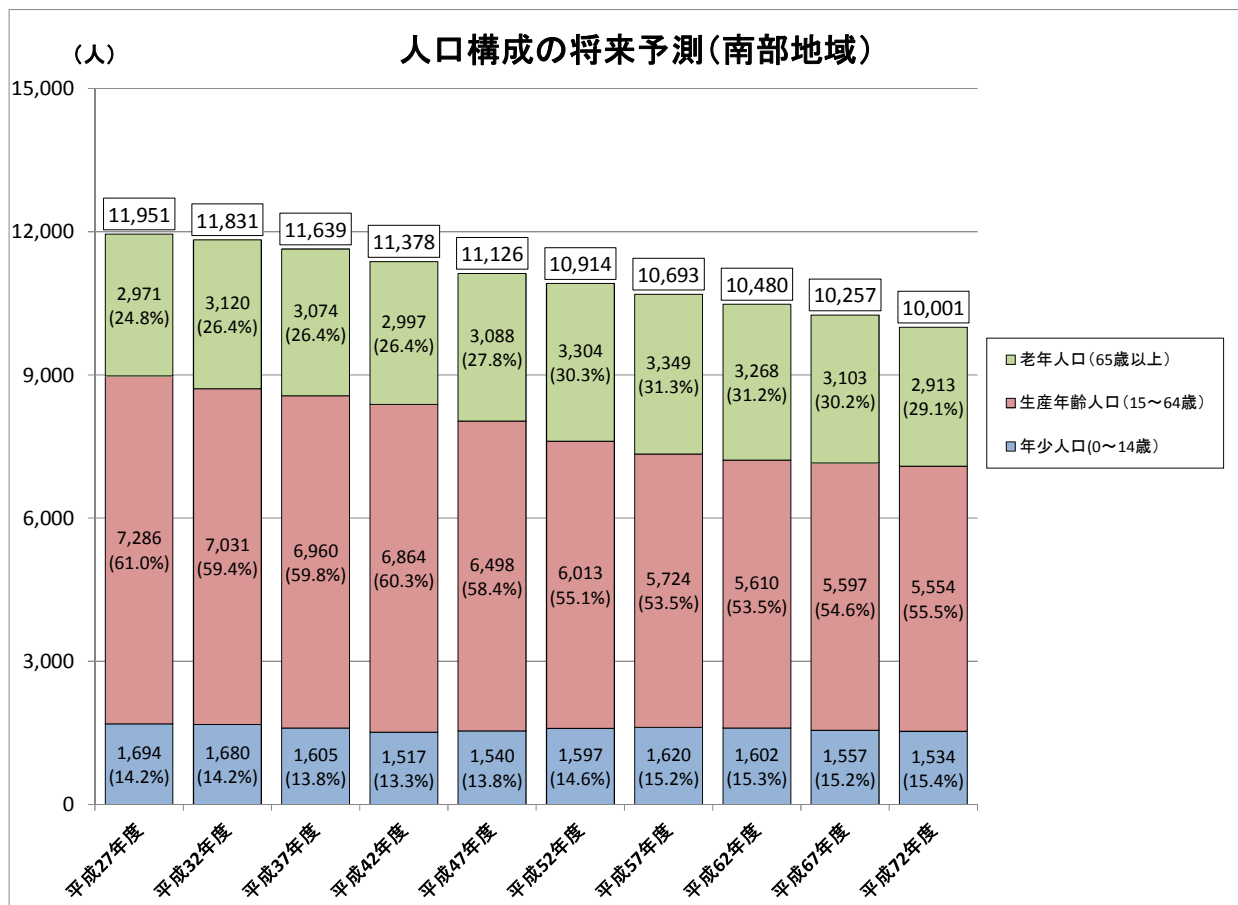
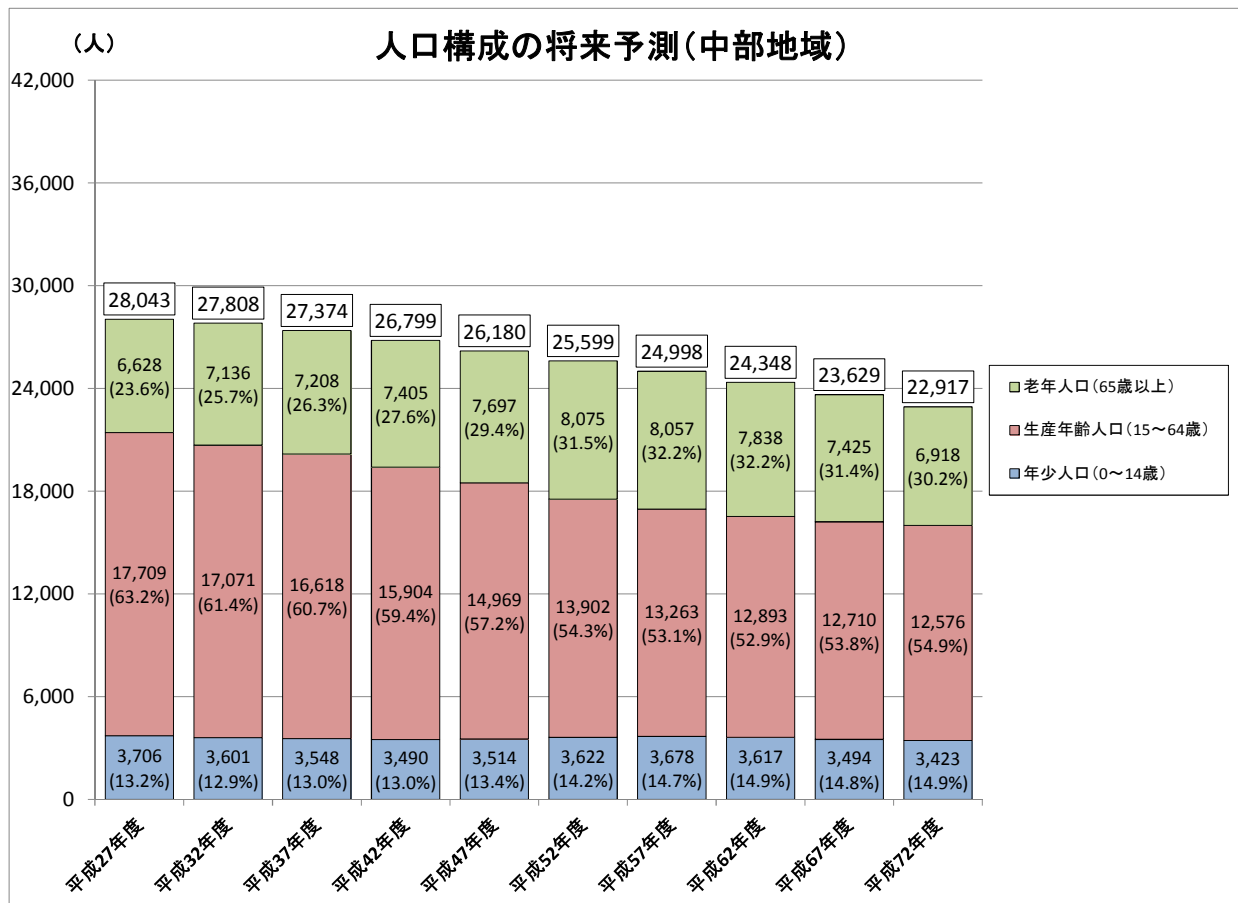


南部地域	H15	H25	増減率
年少人口 (0~14歳)	1,789人 (14.7%)	1,643人 (13.9%)	-8.2%
生産年齢人口 (15~64歳)	8,564人 (70.4%)	7,444人 (62.7%)	-13.1%
老年人口 (65歳以上)	1,807人 (14.9%)	2,782人 (23.4%)	+54.0%
合計	12,160人	11,869人	-2.4%

## (2) 人口の将来予測

人口の将来予測を地域別にみると、どの地域についても人口が15～20%程度減少すると予想されます。その内訳を見ると、どの地域においても年少人口は10%程度、生産年齢人口も20～30%程度減少すると予想されます。一方、老年人口は北部地域及び南部地域ではわずかに減少しますが中部地域では5%程度増加し、全体に占める割合はどの地域でも30%程度まで増加し、高齢化が進行すると予想されます。



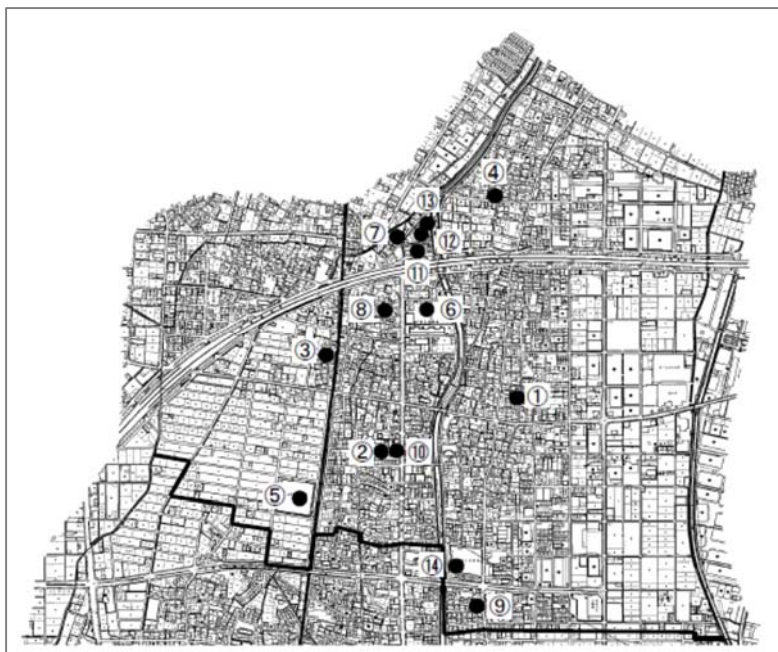


## 第2節 地域ごとの施設の現状

### (1) 北部地域の人口構成と公共施設保有量

北部地域は、他の地域に比べ人口が少なくなっており、施設の総面積も最も小さくなっています。また、人口1人当たりの公共施設の延床面積が最も小さくなっています。

施設の特徴としては、区域の北部に清掃事務所や上水道施設が設置されています。また、昭和40～50年代に建設された施設が多く、全体として老朽化が進行しています。特に保育園は、区域内の保育園が老朽化した北部保育園のみであるため、施設の更新や再配置等について検討する必要があるといえます。



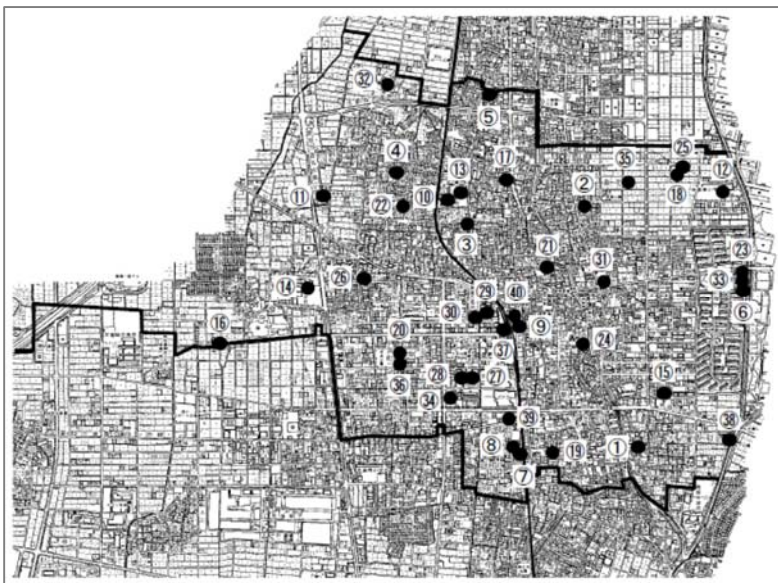
番号	大分類	施設名称	建築年度	老朽化率	延床面積 (㎡)	施設総面積 (㎡)	H25地域人口(人)	地域別人口1人当たり延床面積(㎡)
①	集会施設	八剣会館	昭和58	52	330	8,914	7,004	1.27
②	集会施設	神野会館	昭和60	48	138			
③	集会施設	石仏会館	昭和61	47	330			
④	集会施設	井上会館	昭和61	47	139			
⑤	スポーツ施設	石仏スポーツ広場	昭和63	32	103			
⑥	学校	五条川小学校	昭和50	65	4,568			
⑦	保育園	北部保育園	昭和41	160	739			
⑧	児童館	第六児童館	昭和48	68	210			
⑨	高齢福祉施設	多世代交流センターさくらの家	平成22	7	1,061			
⑩	消防施設	第1分団車庫	平成4	37	43			
⑪	その他行政系施設	清掃事務所	昭和50	65	518			
⑫	上水道施設	第2水源	昭和48	68	36			
⑬	上水道施設	岩倉市配水場	昭和49	67	621			
⑭	公園・広場等	八剣憩いの広場	平成12	23	78			

※市内に1施設のみを設置となっている施設類型については橙色で表示しています。

## (2) 中部地域の人口構成と公共施設保有量

中部地域は、市の中心となる岩倉駅が位置し、市内外から多くの人が集まる地域です。駅西地区については土地区画整理事業により住宅地となっており、地域の東部には岩倉団地があり、市内で最も多くの人々が居住する地域です。それに応じて公共施設数、延床面積ともに最も大きくなっています。

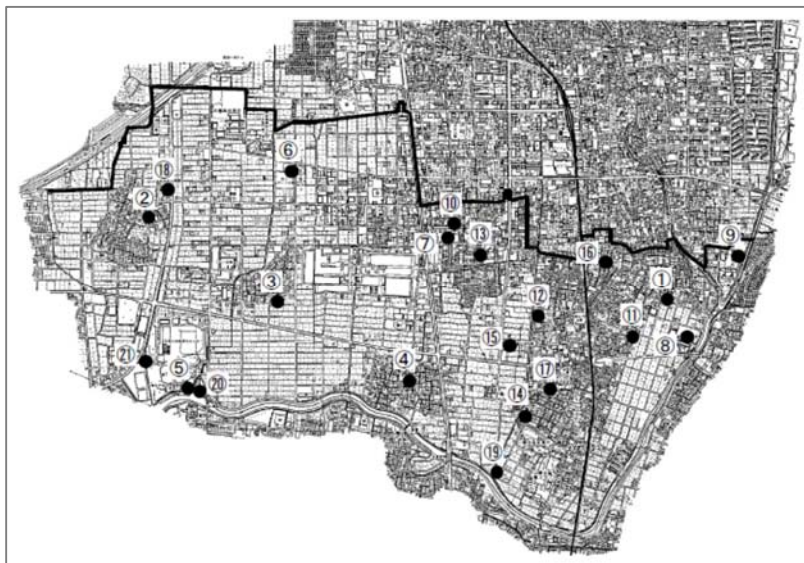
市の施設としては中心施設となる市役所や総合体育文化センターなど大規模な施設が設置されています。



番号	大分類	施設名称	建築年度	老朽化率	延床面積 (㎡)	施設総面積 (㎡)	H25地域人口(人)	地域別人口1人当たり延床面積(㎡)
①	集会施設	大市場町公会堂	昭和55	57	308	59,799	28,786	2.08
②	集会施設	東町会館	昭和59	50	329			
③	集会施設	大上市場会館	昭和60	48	329			
④	集会施設	泉会館	昭和60	48	140			
⑤	集会施設	中野会館	昭和60	48	140			
⑥	集会施設	東新町公会堂	昭和61	48	447			
⑦	文化施設	市民プラザ	昭和50	65	1,088			
⑧	図書館	岩倉市立図書館	昭和57	53	2,521			
⑨	その他社会教育系施設	生涯学習センター	平成21	8	2,022			
⑩	スポーツ施設	市立体育館	昭和39	83	1,062			
⑪	スポーツ施設	総合体育文化センター	平成1	42	7,967			
⑫	学校	岩倉東小学校	昭和40	82	6,004			
⑬	学校	岩倉北小学校	昭和42	78	5,686			
⑭	学校	岩倉中学校	昭和48	68	9,277			
⑮	保育園	東部保育園	昭和43	75	1,135			
⑯	保育園	西部保育園	昭和44	75	534			
⑰	保育園	中部保育園	昭和45	73	1,037			
⑱	保育園	仙奈保育園	昭和49	67	652			
⑲	保育園	下寺保育園	昭和52	62	686			
⑳	地域交流センター	地域交流センター(みどりの家)	平成7	32	717			
㉑	地域交流センター	地域交流センター(くすのきの家)	平成13	22	908			
㉒	児童館	第二児童館	昭和43	77	187			
㉓	児童館	第五児童館	平成8	30	561			
㉔	児童館	第三児童館	平成15	18	674			
㉕	子ども発達支援施設	子ども発達支援施設あゆみの家	昭和49	67	127			
㉖	高齢福祉施設	ふれあいセンター	平成4	37	1,593			
㉗	保健施設	保健センター	昭和61	47	1,274			
㉘	診療所	休日急病診療所	昭和49	67	248			
㉙	庁舎等	公用車駐車場	平成8	30	95			
㉚	庁舎等	市役所	平成13	22	10,360			
㉛	消防施設	第3分団車庫	平成15	18	67			
㉜	消防施設	第2分団車庫	平成26	0	76			
㉝	上水道施設	岩倉団地配水場	昭和47	70	535			
㉞	上水道施設	第1水源	昭和47	70	34			
㉟	上水道施設	第3水源	昭和49	67	36			
㊱	公園・広場等	中央公園	平成25	2	36			
㊲	その他	駅西公衆便所	昭和54	58	42			
㊳	その他	大市場排水機場	昭和57	53	166			
㊴	その他	放置自転車等保管場所	平成7	32	82			
㊵	その他	自転車駐車場	平成21	8	617			

### (3) 南部地域の人口構成と公共施設保有量

南部地域は、区域の北部には住宅地が広がっていますが、南部や西部には田畑が広がり、人口が少ない地域となっています。公共施設は住宅地かそれに近接する地域に設置されており、西部や南部には排水機場や集会施設など、小規模な施設が設置されているほかに、市営大山寺住宅が設置されています。



番号	大分類	施設名称	建築年度	老朽化率	延床面積 (㎡)	施設総面積 (㎡)	H25地域人口(人)	地域別人口1人当たり延床面積(㎡)
①	集会施設	曾野町公会堂	昭和57	53	310	30,193	11,869	2.54
②	集会施設	北島多目的センター	平成7	32	196			
③	集会施設	野寄町公会堂	平成8	30	81			
④	集会施設	川井町文化会館	平成9	28	90			
⑤	その他社会教育系施設	青少年宿泊研修施設希望の家	昭和61	47	978			
⑥	スポーツ施設	野寄テニスコート	平成7	43	81			
⑦	学校	岩倉南小学校	昭和40	82	6,742			
⑧	学校	曾野小学校	昭和56	55	6,209			
⑨	学校	南部中学校	昭和51	63	8,418			
⑩	保育園	南部保育園	平成9	28	838			
⑪	児童館	第七児童館	昭和49	67	210			
⑫	児童館	第四児童館	平成9	28	380			
⑬	高齢福祉施設	南部老人憩いの家	昭和51	63	389			
⑭	公営住宅	市営大山寺住宅	昭和49	67	2,519			
⑮	消防施設	消防署	平成8	30	1,963			
⑯	消防施設	第4分団車庫	平成17	15	55			
⑰	消防施設	防災コミュニティセンター	平成17	15	447			
⑱	公園・広場等	自然生態園	平成7	63	70			
⑲	その他	大山寺排水機場	昭和60	48	54			
⑳	その他	野寄排水機場	平成1	42	100			
㉑	その他	北島排水機場	平成4	37	63			

### 第3節 地域ごとの課題

地域ごとにみた公共施設の課題として以下の点が挙げられます。

#### 〔課題1〕 施設保有量

◆地域ごとの市民1人当たりの延床面積は最も小さい北部地域で1.27㎡、最も大きい南部地域で2.54㎡となっています。全国平均が3.42㎡、同規模の自治体（人口45,000人～47,500人）の平均が4.47㎡なので、どの地区でも公共施設保有量は少ない状況といえます。

#### 〔課題2〕 地域ごとの整備状況

◆地域別に公共施設の整備状況を見ると、保育園は中部地域に5園整備されているのに対し、北部地域と南部地域はそれぞれ1園しか整備されていません。

#### 〔課題3〕 施設の老朽化の状況

◆本市の公共施設を老朽化率から見ると、およそ半数の施設で老朽化率が50%を超えており、全体として老朽化が進行しているといえます。地域別にみると、南部地域では老朽化率が50%を超えている施設数が少なくなっていますが、延床面積で老朽化率が50%を超えている割合は80%を超えており、他の地域に比べ施設の老朽化が進行しています。